

令和3年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
(地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証)

電気通信工事業界のための
工業高等学校及び専門学校連携による
人材育成モデル構築事業

成果報告書

令和4年3月

株式会社東京リーガルマインド

内容

第1章 事業概要	5
第1節 事業の趣旨・目的等について	5
第1項 事業の趣旨・目的	5
第2項 学習ターゲット、目指すべき人材像	5
第2章 事業の実施	6
第1節 実施体制	6
第1項 構成機関	6
第2項 実施体制	6
第3項 各機関の役割	8
第2節 実施内容	9
第1項 実施内容	9
第2項 実施委員会の開催	9
第3項 実態調査	11
第4項 ジョブフェア（体験学習会）の開催	29
第3章 教育プログラムの開発	40
第1節 カリキュラムの開発	40
第1項 情報教育連携プログラム	40
第2項 電気通信業界を見据えたキャリア教育プログラム	40
第2節 シラバス・評価基準	42
第1項 工業高校（課題研究）・通信制高校（社会人基礎）共通シラバス	42
第2項 専門学校（キャリア教育1）シラバス	44
第3項 専門学校（情報学基礎）シラバス	46
第4項 参考：ITパスポート試験 全体構成（シラバス）	48
第5項 参考：高校「情報I」 全体構成（文部科学省）	49
第4章 教育プログラムの普及ネットワークおよび想定普及地域	51
第1節 教育プログラムの普及ネットワークおよび想定普及地域	51
第1項 事業連携機関ネットワークと普及を想定する地域、高等学校	51
第2項 事業連携機関ネットワークと普及を想定する専門学校、通信制高等学校	53

第1章 事業概要

第1節 事業の趣旨・目的等について

第1項 事業の趣旨・目的

電気通信工事、保守点検・検査などを行う電気通信工事業界の売上高（主要24社の合計）は2009年から2019年まで緩やかな増加を見せ、コロナ禍の2020年は横ばいである4兆9,708億円を記録しており、あらゆる分野でIT化が進む現代において生活に不可欠な業界と言える。職種として建設業界は国土交通省が発表した調査によれば、1992年から20%も就業者の数が減少している。特に電気通信工事業界では業種平均年齢が45.2歳、特に29歳以下の割合が低いことから、若者に敬遠され、就業者の高齢化が問題となっている（平成22年度総務省統計局）。

電気通信工事業界では近年、楽天モバイルといった新規通信キャリアの参入や、NTTドコモだけでも2022年3月までに5G基地局数累計2万局、人口カバー率55%の達成を目標としており、更に深刻な技術者不足問題を抱えている。更に今年度総務省は地域における情報通信基盤等の環境整備としてローカル5Gの普及展開促進を掲げており公共以外、商用での5Gネットワーク整備も本格化する中で電気通信工事人材の育成は急務である。

以上のような背景から情報系専門学校と工業高校の連携により、それぞれの新卒人材を電気通信工事業界に輩出すべく業界企業とのコンソーシアムを編成することで産業界のニーズに見合った人材育成カリキュラムの開発、民間資格の創出、新卒採用及び関連教育のプラットフォームの構築など、高等学校入学から、専門学校進学、就職後のキャリアパスまでを明確にし、入職後の離職問題に対するフォローアップまでも含めた人材育成モデル事業を実施する。

第2項 学習ターゲット、目指すべき人材像

高校卒業時においては、業界への興味、理解の促進と社会に出る基礎教育に、エントリレベルの専門教育によって入職者の増加と職業定着を目指す。

高等学校での業界向け課程の修了を受け、専門学校では、さらに、ドキュメンテーション能力、プロジェクトマネジメント能力の基本と実務に有効な資格（工事担任者、陸上特殊無線技士）班長（職長）を想定したリーダーシップを伴う職業人の育成を目指す。

第2章 事業の実施

第1節 実施体制

本事業では、以下のような構成機関からの参画者により実施委員会及び開発部会を組織し、事業を推進した。

第1項 構成機関

(1) 教育機関

	名称	役割等	都道府県名
1	埼玉県立川口工業高等学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	学校法人山口松陰学園	調査・開発協力・評価	山口県
3	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
4	学校法人東京町田学園 町田デザイン&建築専門学校	調査・開発協力・評価	東京都

(2) 企業・団体

	名称	役割等	都道府県名
1	株式会社東京リーガルマインド	事業統括	東京都
2	ギグワークスアドバリュー株式会社	調査・開発協力・評価	神奈川県
3	合同会社富山	調査・開発協力・評価	千葉県

(3) 行政機関

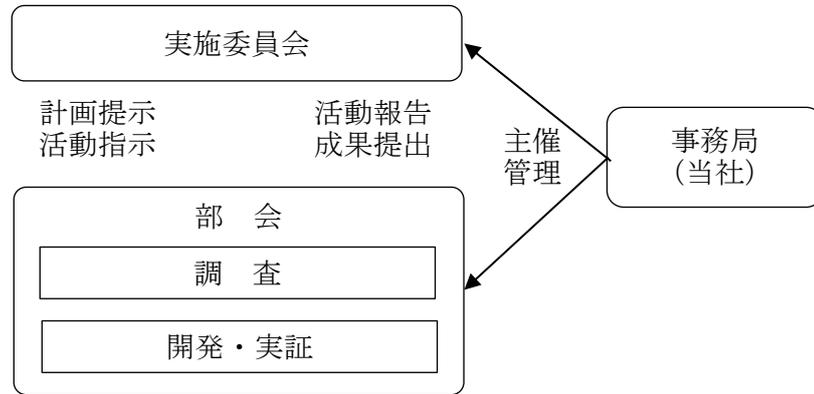
	名称	役割等	都道府県名
1	埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課	開発協力・評価	埼玉県

第2項 実施体制

本事業では、実施体制として「実施委員会」「調査部会」「開発・実証部会」の3組織を設置した。各組織の概要は以下の通りである。

なお、株式会社東京リーガルマインドは各組織の会議主催者として座長を務めると共に、事務連絡・経費管理・請負業者手配等の各種事務作業を担当する。

事業実施体制のイメージ



○ 実施委員会

構成員：教育機関、行政機関、業界企業・団体、学識者

役割：事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、
活動内容の承認・評価、活動成果の評価

○ 調査部会

構成員：業界企業・団体、教育機関

役割：調査企画、調査対象検討、調査票作成、集計結果分析、
調査報告書作成

○ 開発・実証部会

構成員：教育機関、業界企業・団体、行政機関

役割：カリキュラム設計、教材設計、開発教材評価・修正、
開発報告書作成、実証講座企画・設計、実施結果分析、
実証講座実施報告書作成

高・専一貫のプログラムは下記の高等学校と専門学校が中心となり開発する

● プログラム開発校

高等学校	専門学校
埼玉県立川口工業高等学校	中央情報専門学校
学校法人山口松陰学園	学校法人東京町田学園 町田デザイン&建築専門学校

第3項 各機関の役割

各機関の役割・実際に得られた協力事項については以下のとおり

○教育機関

高等学校

- 埼玉県立川口工業高等学校
- 学校法人山口松陰学園
 - ・ 産業界のニーズを反映したエントリーレベルカリキュラム開発（専門学校との教育コンテンツ連携）
 - ・ 新卒作業員人材の育成・輩出

専門学校

- 学校法人中央情報学園中央情報専門学校
 - ・ 産業界ニーズを反映した上位カリキュラム開発（高校との教育コンテンツ連携）
 - ・ 新卒職長（責任者）レベル人材の育成・輩出

○企業・団体

- ギグワークスアドバリュー株式会社
 - ・ 必要とされる人材像、教育、及びキャリアパスの再定義
 - ・ 本プログラムからの埼玉県新卒人材採用
 - ・ 高校と専門学校の専門教育切り分け助言
 - ・ 業界の及び職業の若者に対する PR（職業体験など）
- 株式会社東京リーガルマインド〈事業コーディネーター〉
 - ・ 高校→専門学校→電気通信工事業界の一気通貫型の人材プラットフォームを構築・運営
 - ・ 職業教育、人材マッチングイベント企画実施
 - ・ 在学中及び入職後のキャリアコンサルタントの派遣

○行政機関

- 埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課
 - ・ 埼玉県内の他の県立高校に対する業界及び事業の PR
 - ・ 人材プラットフォームへの参画促進
 - ・ 地域事業としての高校-専門学校連携に対する意見、提案、監督

第2節 実施内容

第1項 実施内容

令和3年度は本事業において以下の取り組みを実施した。

- ・実施委員会の組織化と開催
- ・実態調査の実施
- ・ジョブフェア（体験学習会）の開催
- ・教育プログラムの開発
- ・カリキュラム・シラバス R3 年度版の策定
- ・事業成果のとりまとめ

以下、取り組みの詳細について報告する。

第2項 実施委員会の開催

会議名	令和3年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施委員会		
目的・役割	事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、活動内容の承認・評価、活動成果の評価		
検討の 具体的内容	事業目的と推進協力のコンセンサスを得る。 全体のスケジュールと令和3年度実施項目確認。 イベント及び連携プログラム開発、並びに実証の仕様の承認。 調査結果・開発成果の評価、成果物の承認などに関する討議。 実働により確認された課題と次年度申し送り事項（優先事項）を協議。		
委員数	13人	開催回数	2回

令和3年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施委員会の構成員（委員）

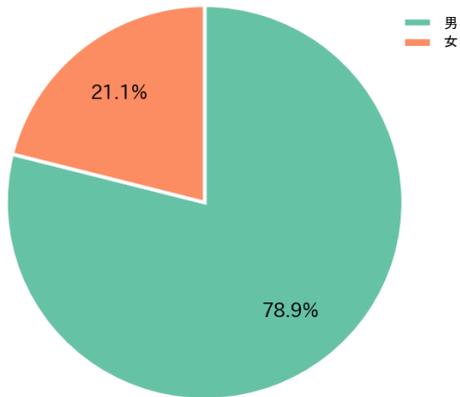
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 小菅 厚	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校 教務部長	調査・開発 協力・評価	埼玉県
2 市川 直洋	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校 就職部長	調査・開発 協力・評価	埼玉県
3 大橋 亨	埼玉県教育局県立学校部 高校教育指導課産業教育・キャリア教育担当	調査・開発 協力・評価	埼玉県
4 武田 康雄	埼玉県立川口工業高等学校 情報通信科 科長	調査・開発 協力・評価	埼玉県
5 後藤 泰介	埼玉県立川口工業高等学校 進路指導主事	調査・開発 協力・評価	埼玉県
6 湯山 俊樹	学校法人山口松陰学園 松蔭高等学校 校長	調査・開発 協力・評価	山口県
7 茂木 亮	学校法人東京町田学園 町田デザイン&建築専門学校 キャリアセンター次長	調査・開発 協力・評価	東京都
8 梅林 祐起	ギガワークスアドバリュー株式会社 コントラクション統括部 統括部長	調査・開発 協力・評価	神奈川県
9 中村 拓海	株式会社ソーシャライズ	調査・開発 協力・評価	東京都
10 茂木 亮	合同会社富山 代表取締役	調査・開発 協力・評価	千葉県
11 小笠原知康	株式会社東京リーガルマインド 公共事業本部 マネージャー	事業統括	東京都
12 川崎 正人	株式会社東京リーガルマインド 公共事業本部 マネージャー	事業統括	東京都
13 森川 元嗣	株式会社東京リーガルマインド 公共事業本部 マネージャー	事業統括	東京都

第3項 実態調査

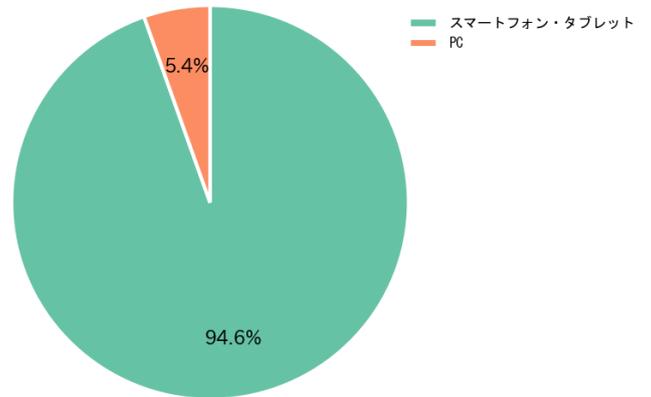
調 査 名	実態調査（１）企業へのアンケートによる実態調査 実態調査（２）学生を対象とした意識調査
調 査 目 的	<p>実態調査（１） 電気通信工事業界における人材不足の実態、課題を分析し、高等学校入学から業界に入職、更に専門学校を経て業界に入職する人材像を定義し、それに伴う知識（専門的または教養的）・スキルを教育プログラムの内容に反映させる。これにより、教育プログラムを人材の受け入れ側である企業ニーズに沿ったものへと仕上げていく。受け入れる産業界においても、業界及び業務内容、キャリアパス等を広く若者に認知してもらう為には何が必要であるか調査・分析する。さらにアンケートでは、本事業の次年度以降に開催を想定しているジョブフェアへの参画を呼び掛ける。</p> <p>実態調査（２） 電気通信工事業界に関する意識や懸念していることなどを分析し、結果を教育プログラムおよび職業紹介イベントの内容に反映させる。</p>
調 査 対 象	<p>実態調査（１） 全国の電気通信工事関連の企業 約1,000件 実態調査（２） 埼玉県下の高校生・専門学校生徒 約 100名</p>
調 査 手 法	<p>実態調査（１） 郵送およびWEB アンケートシステムの活用によるアンケート調査（2022年2月） 実態調査（２） 職業紹介イベントの開催によるアンケート調査（2022年3月上旬）、WEB アンケートシステムの活用</p>
調 査 項 目	<p>実態調査（１） 入職人材に対するニーズや課題、本事業で開発する教育プログラムへの関心や取り入れてほしい教育内容、望ましい実施形態など 実態調査（２） 電気通信工事業界への就職に対する意識調査</p>
分 析 内 容 （ 集 計 項 目 ）	<p>実態調査（１） 全体的な傾向と、ニーズの高い教育内容の傾向を分析 実態調査（２） 希望進路、電気通信工事業界に対する認知度、意識傾向を分析</p>

1. 高校生向け 回答数 60

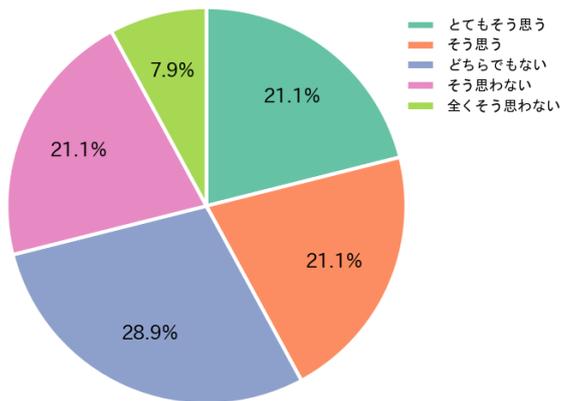
性別



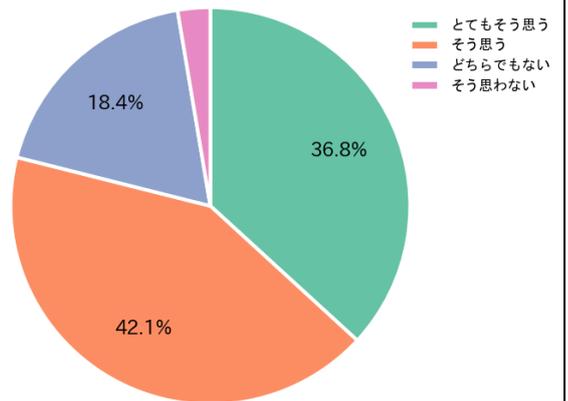
回答に使用している機器は？



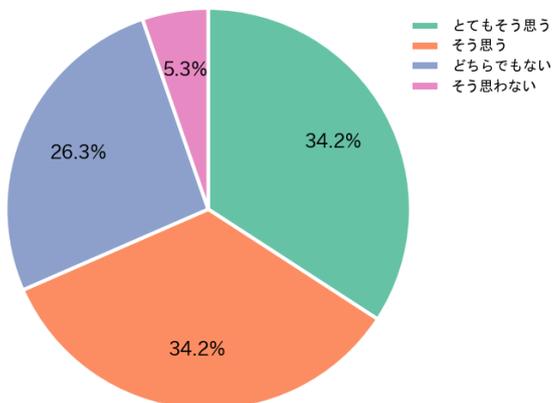
1_IOTネットワーク社会を支えるインフラ工事の仕事に興味がある



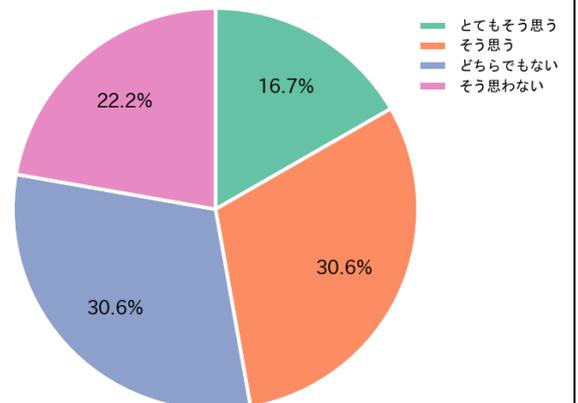
2_「建設」という言葉が含まれる仕事は肉体的にキツイ仕事だと思う



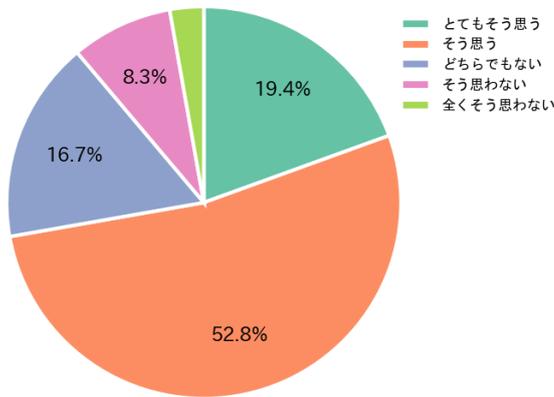
3_「通信」という言葉から、国家資格や民間資格などの取得が必須だと感じる



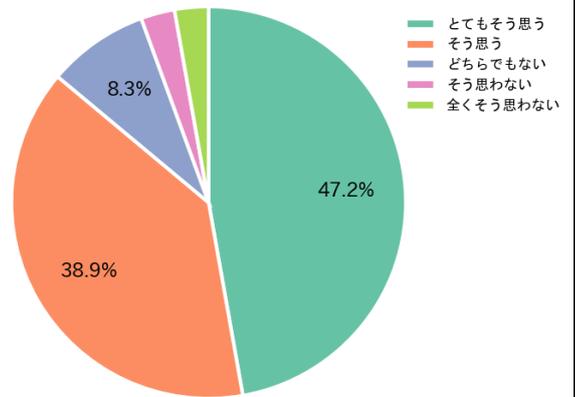
4_「通信建設」という言葉から、仕事は常に危険が伴うと思う



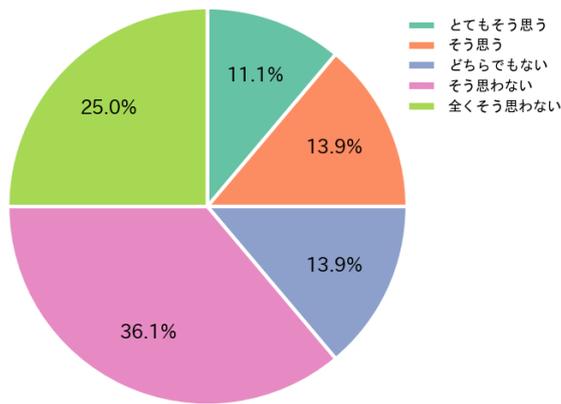
5_「通信」の知識やスキルは日常生活においても自分に恩恵をもたらさずと思う



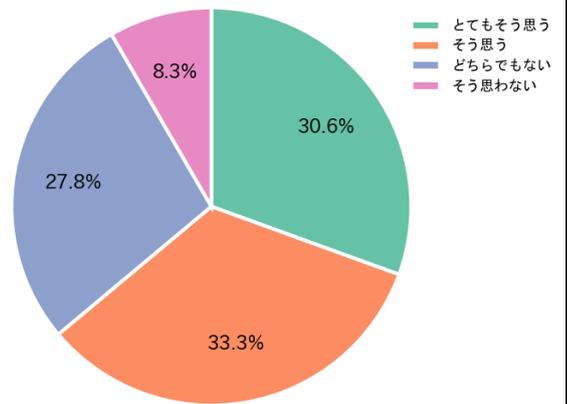
6_携帯電話やインターネットに関する知識は生活するのに必要だと思う



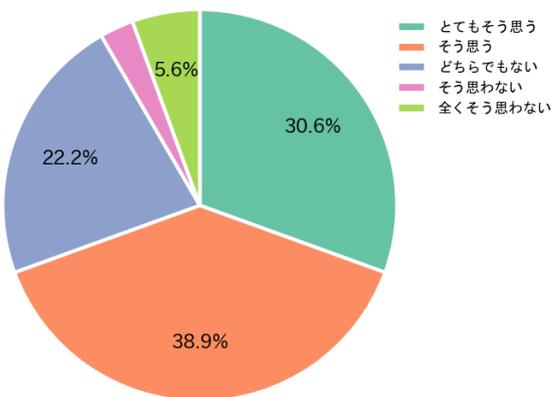
7_高校を卒業したら就職したい



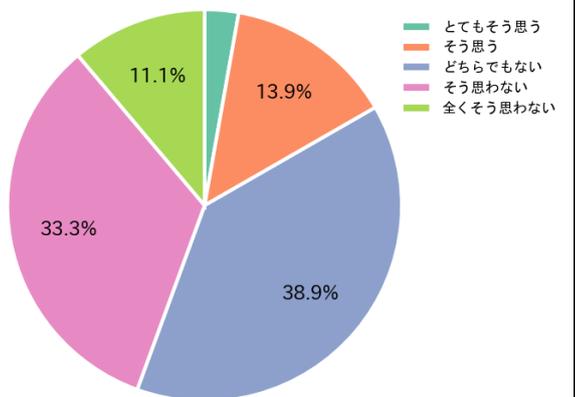
8_自宅から通勤可能な範囲で仕事をしたい



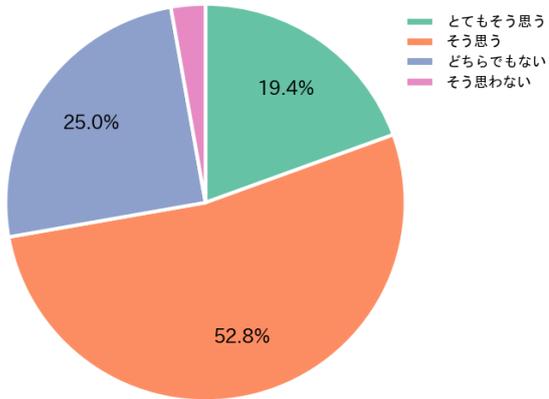
9_決められた時間（9：00～18：00など）の仕事に就きたい



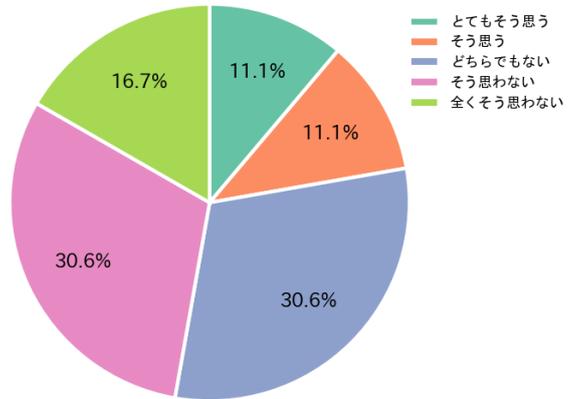
10_給料は低くても楽な仕事に就きたい



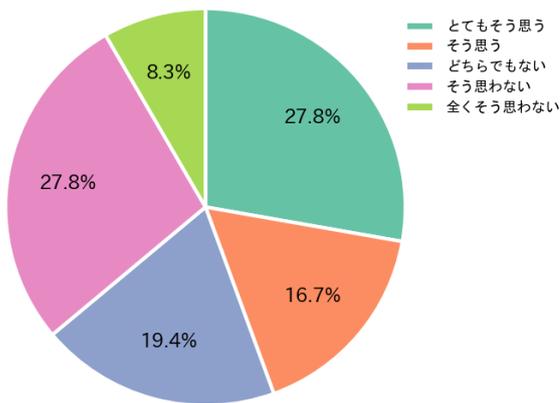
11_仕事はキツくても、自分のやりたい仕事に就きたい



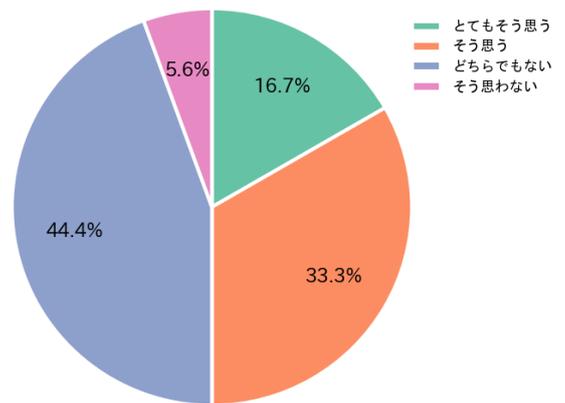
12_将来は会社を運営してみたい



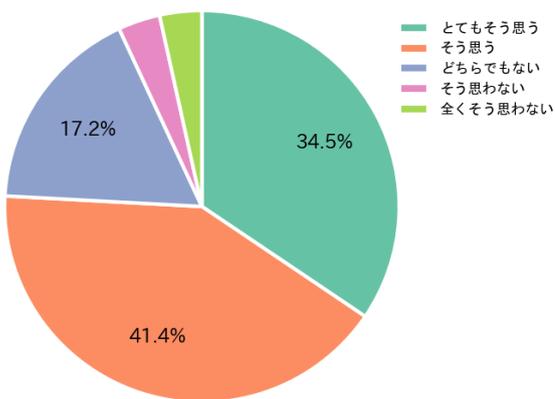
13_自分のやりたい仕事が見つからない



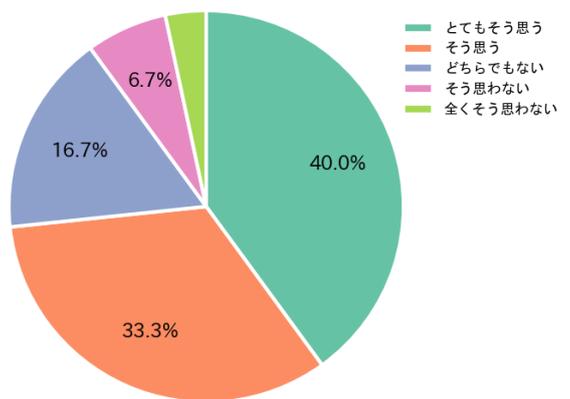
14_「働かざる者食うべからず」という言葉はその通りだと思う。



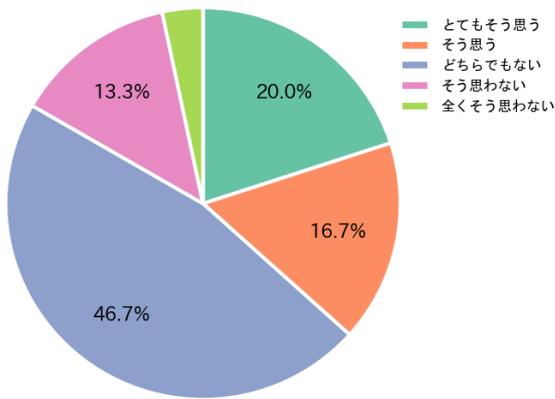
15_専門的、技術的なことを学ぶのは面白い



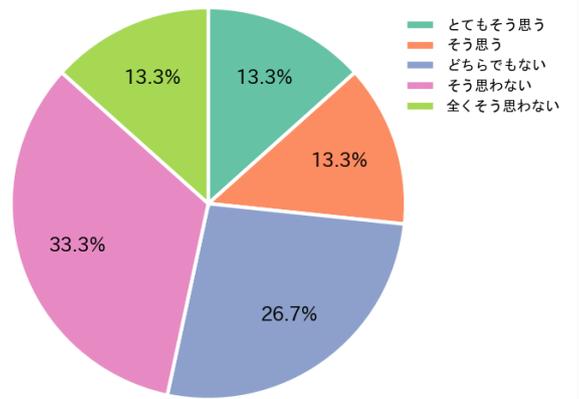
16_座学よりも実習授業が好きである



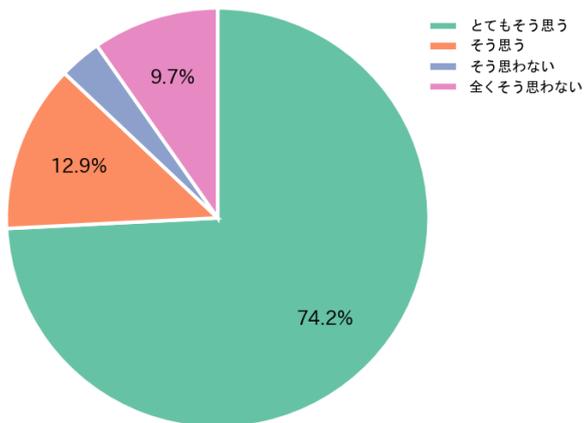
17_高校で取得すべき専門資格の勉強は楽しい



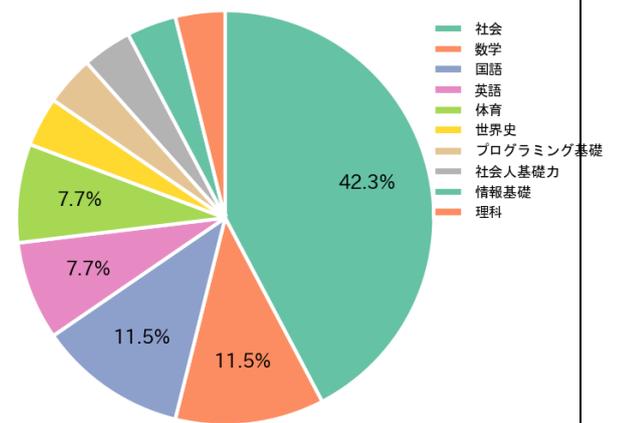
18_将来働く職業の具体的なイメージがある



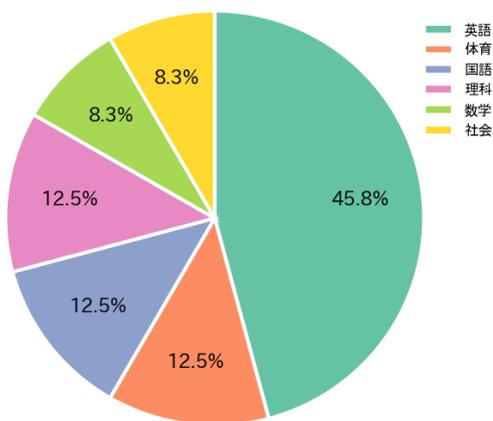
19_高校は卒業しなければならないと思っている



20_高校で一番楽しい授業科目は？

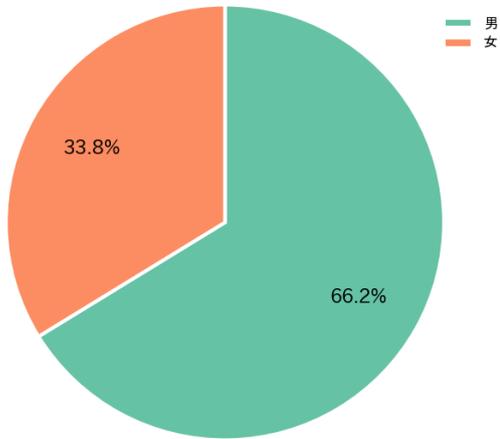


21_高校で一番つらい授業科目は？

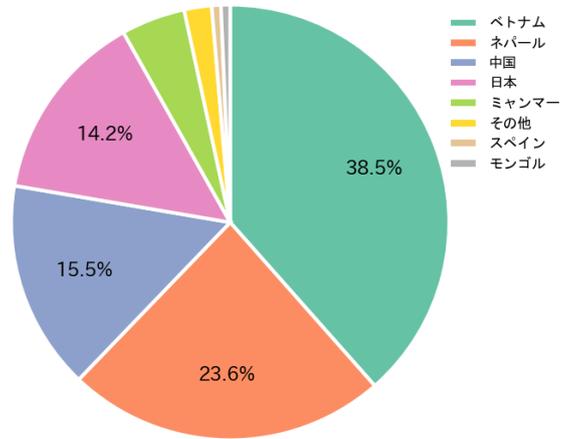


2. 専門学校生向け 回答数 148

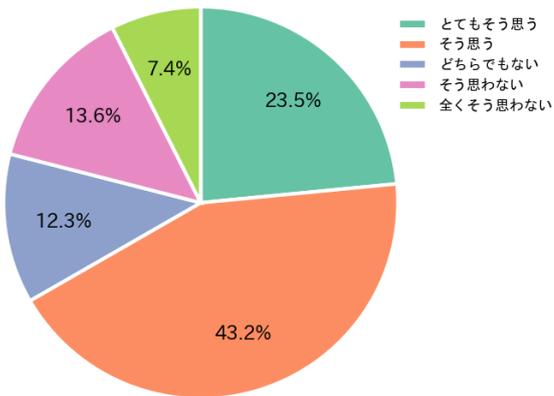
性別



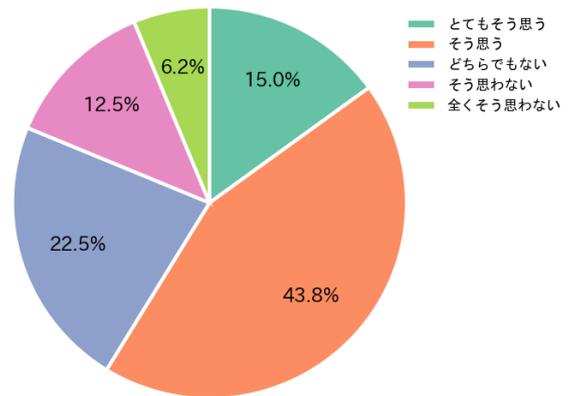
国籍



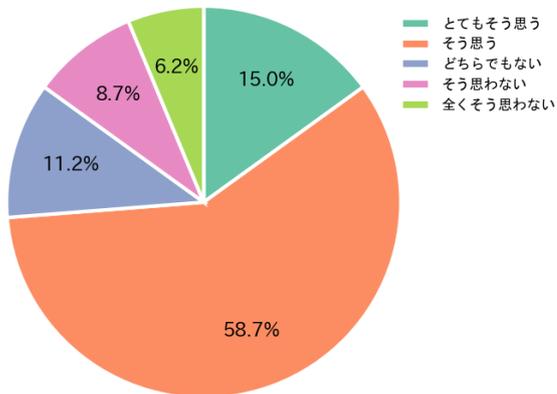
1_ IOTネットワーク社会を支えるインフラ工事の仕事に興味がある



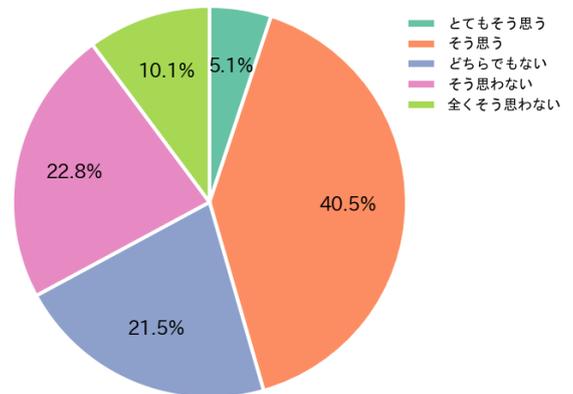
2_ 「建設」という言葉が含まれる仕事は肉体的にキツイ仕事だと思う



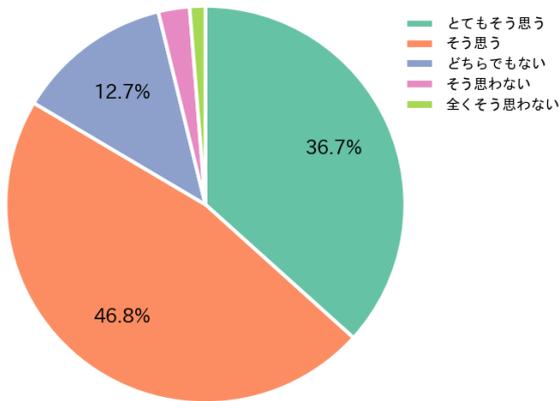
3_ 「通信」という言葉から、国家資格や民間資格などの取得が必須だと感じる



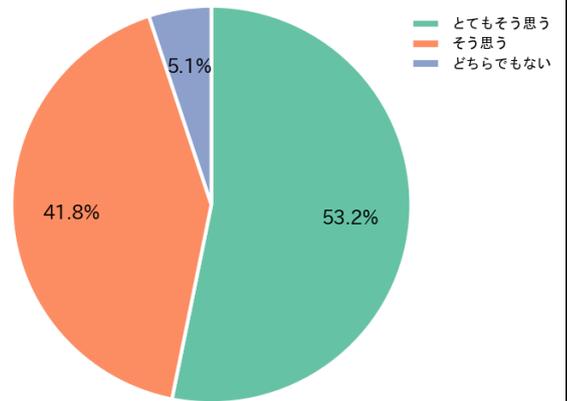
4_ 「通信建設」という言葉から、仕事は常に危険が伴うと思う



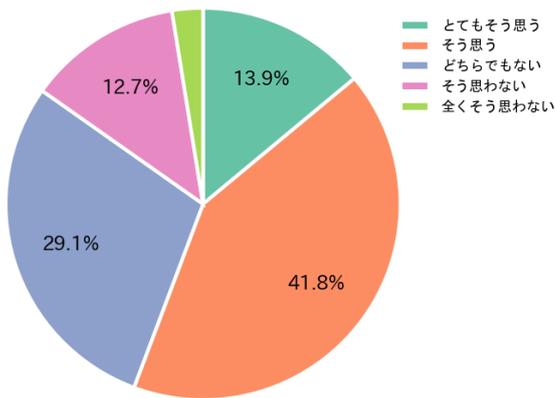
5_「通信」の知識やスキルは日常生活においても自分に恩恵をもたらすと思う



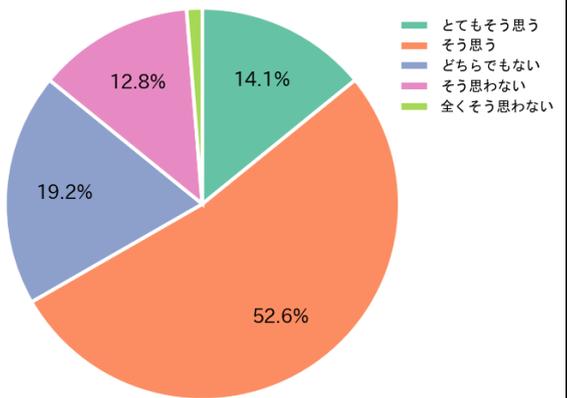
6_携帯電話やインターネットに関する知識は生活するのに必要だと思う



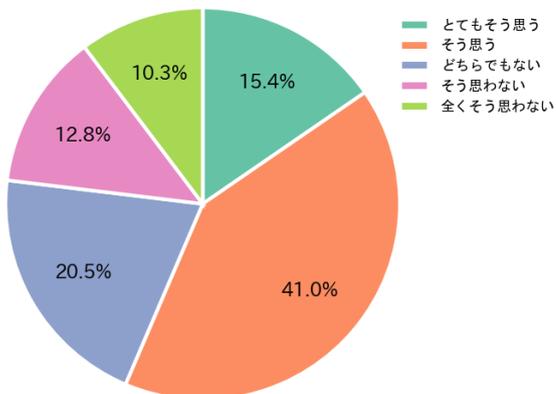
7_デスクワークの方が現場仕事よりも良い



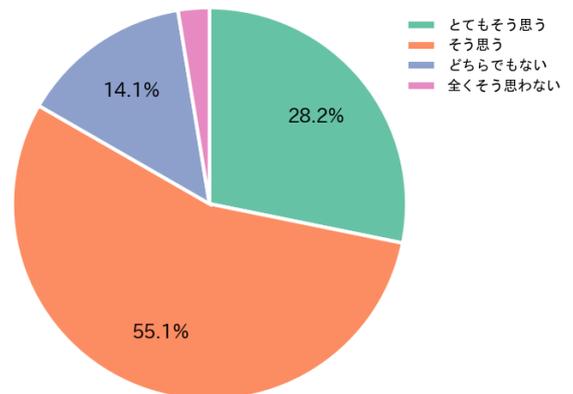
8_エンジニア職なら現場仕事が含まれても良い



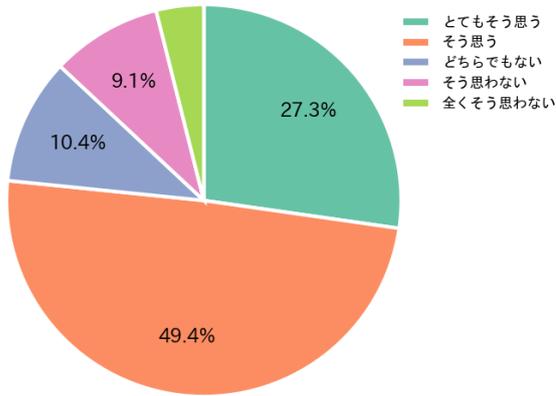
9_仕事に必要な資格試験合格に不安を感じる



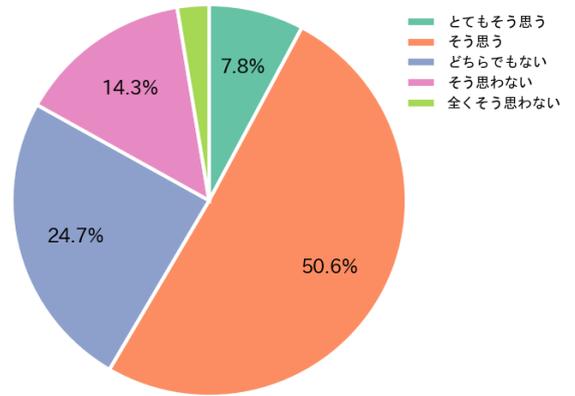
10_同じ業界でキャリアを積んで長く働きたい



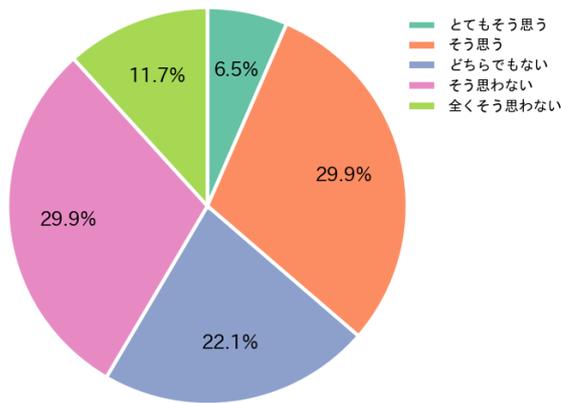
11_自宅から通勤可能な範囲で仕事をしたい



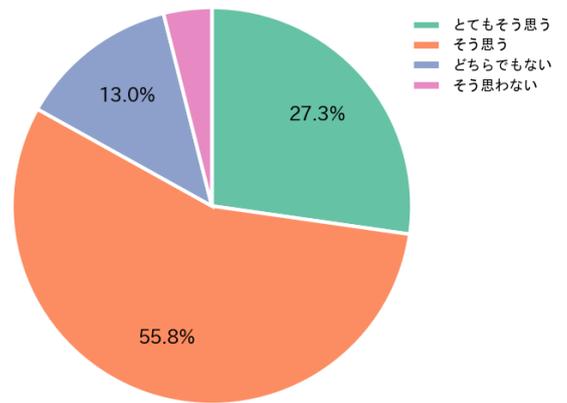
12_就職先によっては遠方への引っ越しも仕方ない



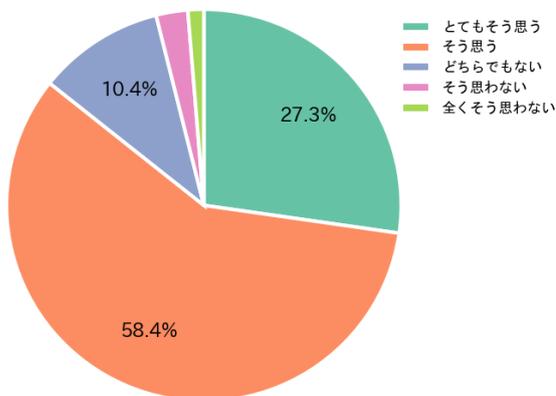
13_給料は低くても楽な仕事に就きたい



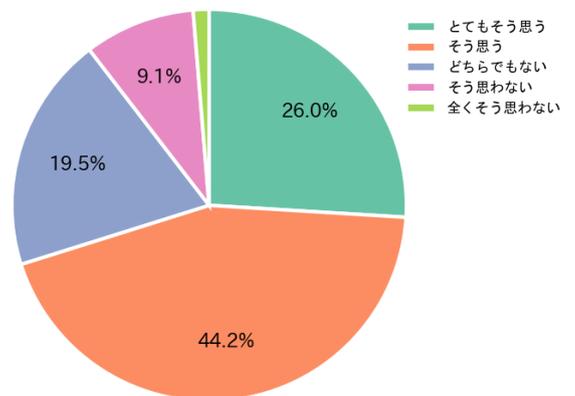
14_仕事はキツくても、自分のやりたい仕事に就きたい



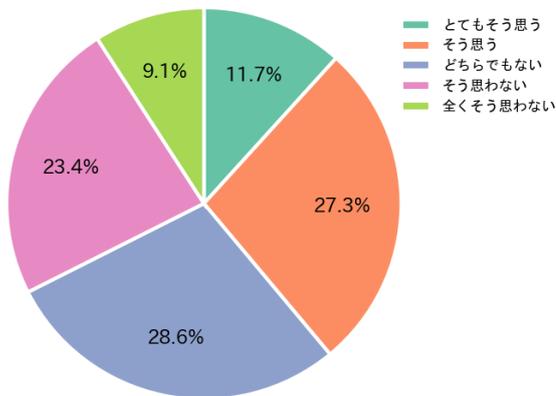
15_学校で学んだ事を活かして就職したい



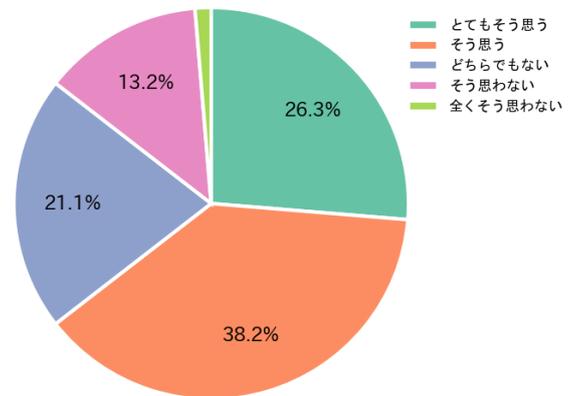
16_将来は会社を経営してみたい



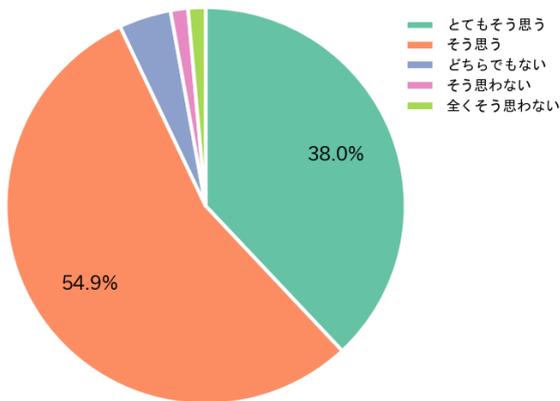
17_自分のやりたい仕事が見つかっていない



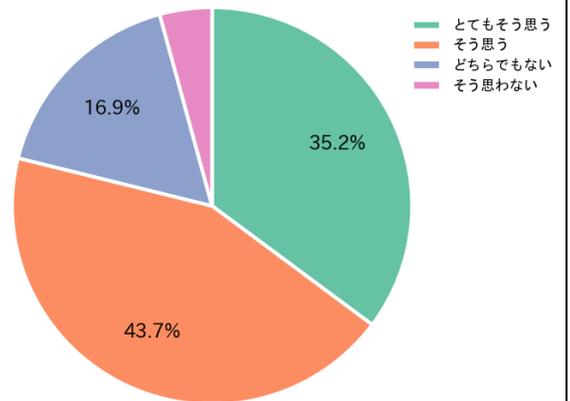
18_「働かざる者食うべからず」という言葉はその通りだと思う。



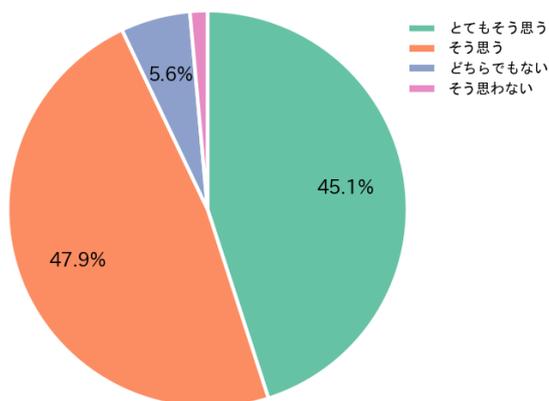
19_専門的、技術的なことを学ぶのは面白い



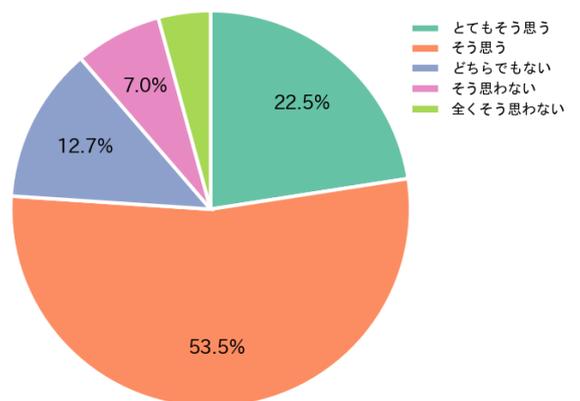
20_座学よりも実習授業が好きである



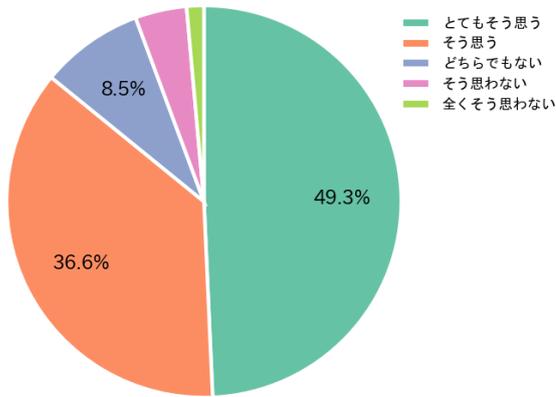
21_卒業までにはできるだけ就職に役立つ資格を取得したい



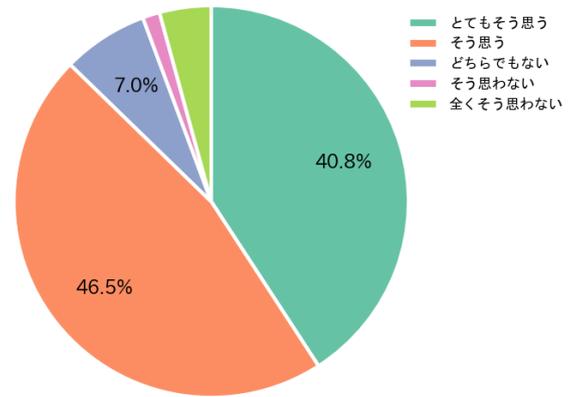
22_将来働く職業の具体的なイメージがある



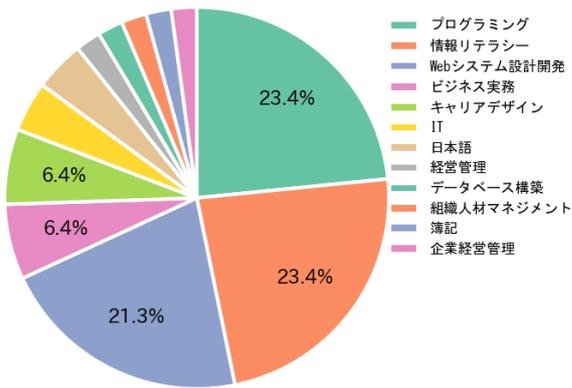
23_専門学校に入学したのは就職するためである



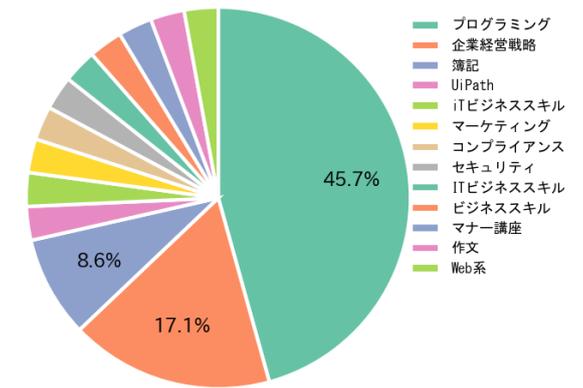
24_専門学校で学んだことは社会に出てから役に立つと思う



25_専門学校で一番楽しい授業科目は？

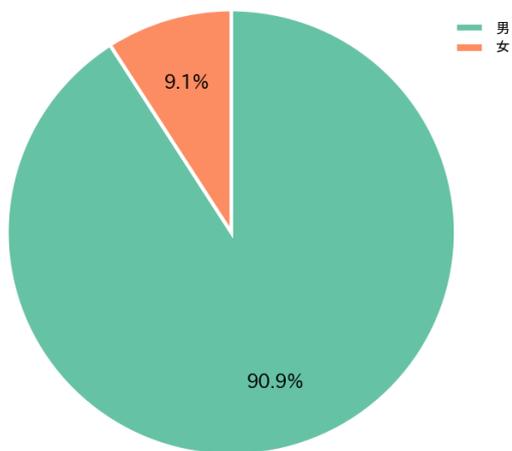


26_専門高校で一番つらい授業科目は？

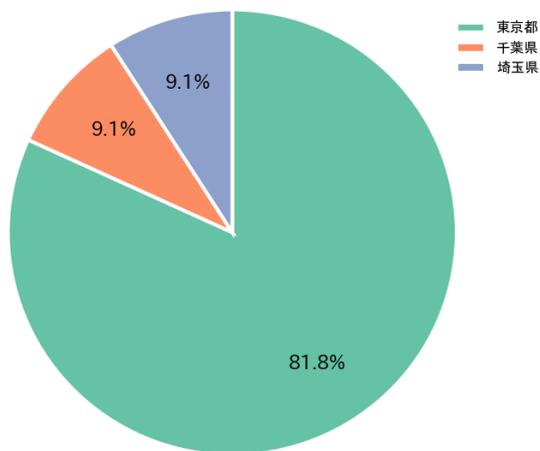


3. 通建業界企業向け 回答数 11

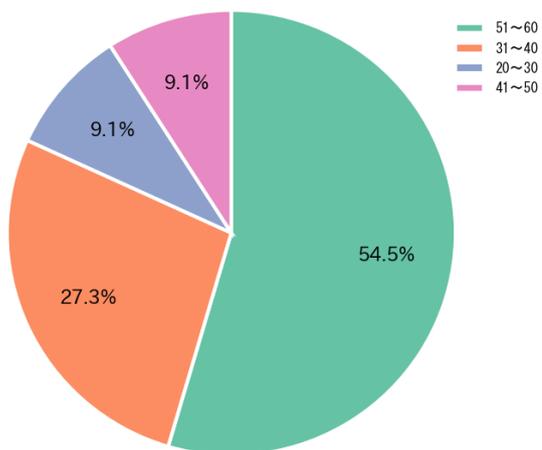
性別



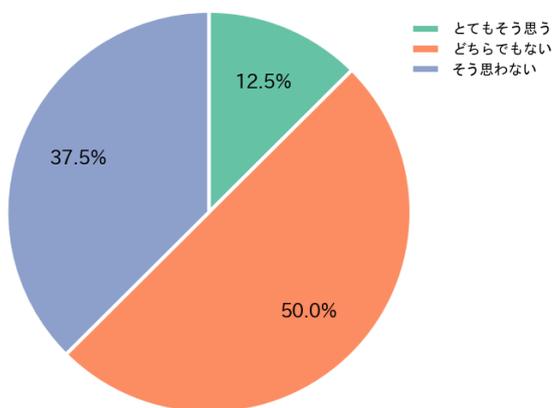
都道府県



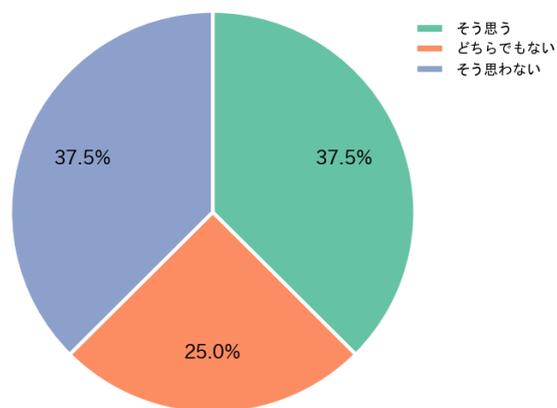
年代



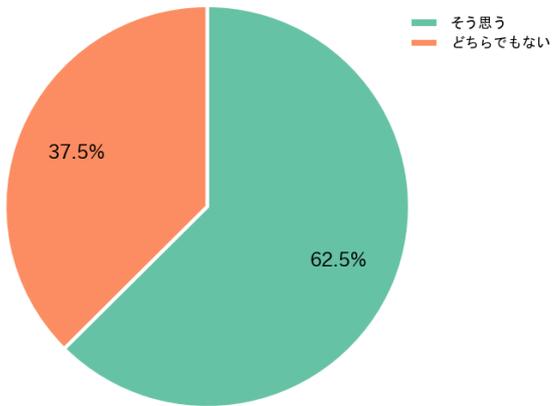
1_高卒の新人に一定以上の業界知識、スキルを望む



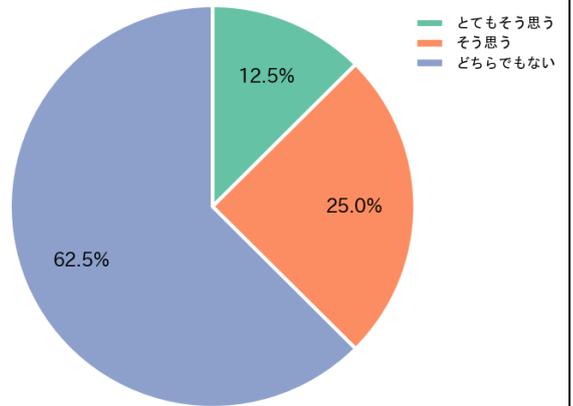
2_高校時代に最低限取得して欲しい資格がある



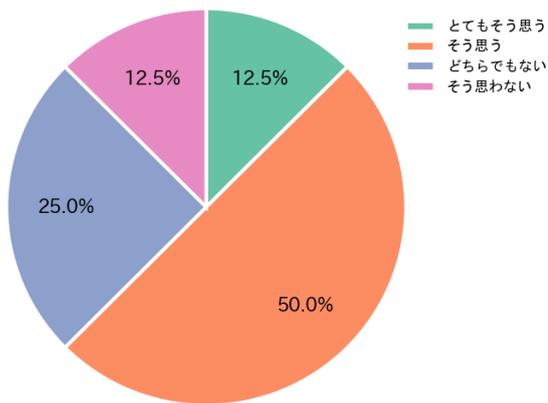
3_高校時代の成績や出席率は気になる



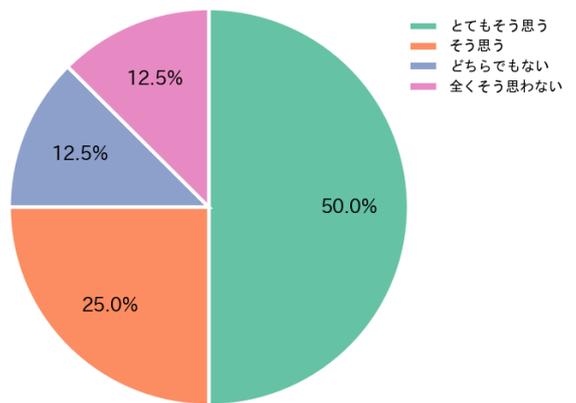
4_高校時代に所属していた部活は気になる



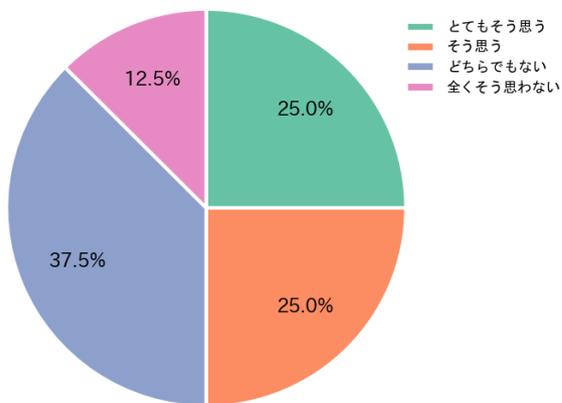
5_採用時に高校の先生の推薦があったほうが良い



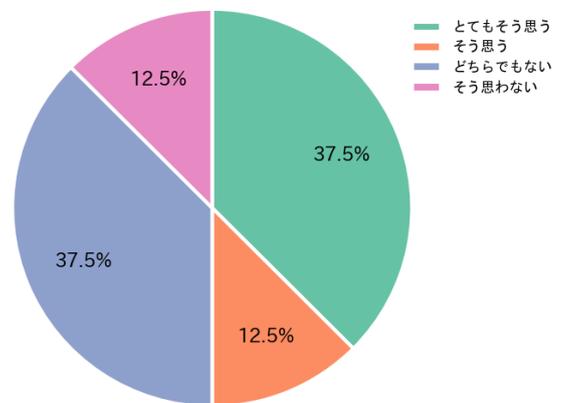
6_通建業界とその仕事に関して高校生にもっと知ってもらいたい



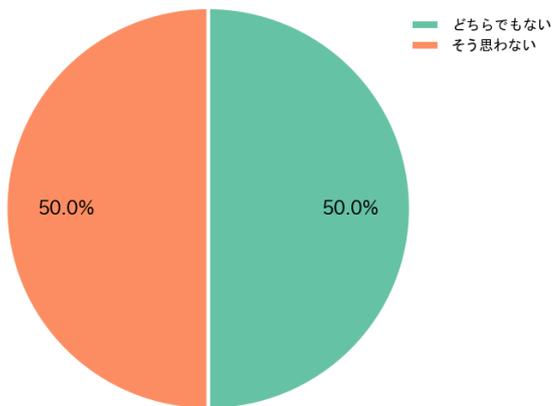
7_生徒に対して体験授業や講話の為に学校に向向いても良い



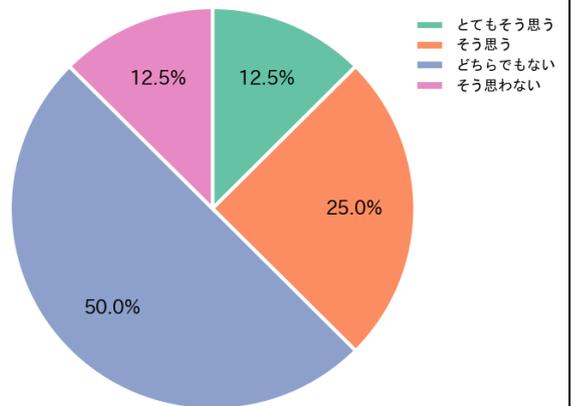
8_高卒の新人を一から育てることに意義を感じる



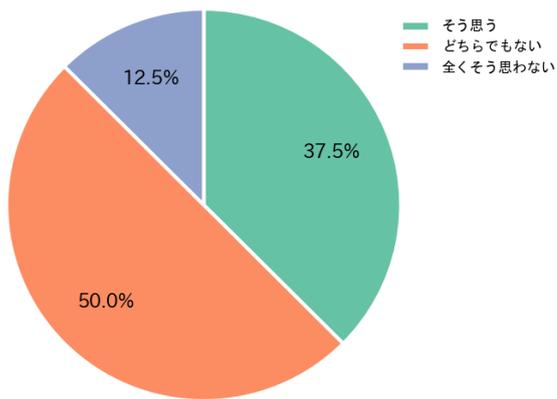
9_通建業界は高校生に人気があると思う



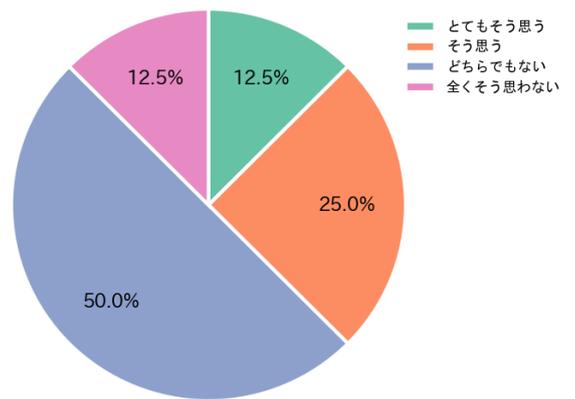
10_高校生のうちに学んでほしい事がある



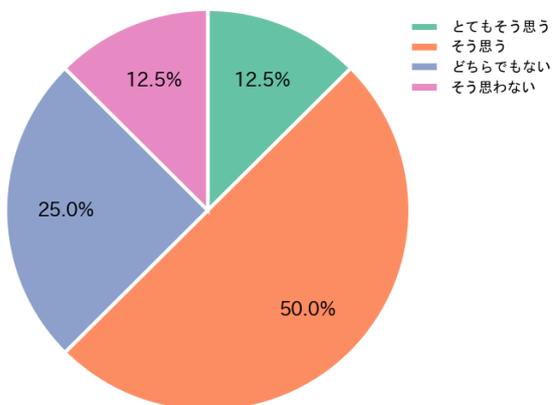
11_専門卒の新人に一定以上の業界知識、スキルを望む



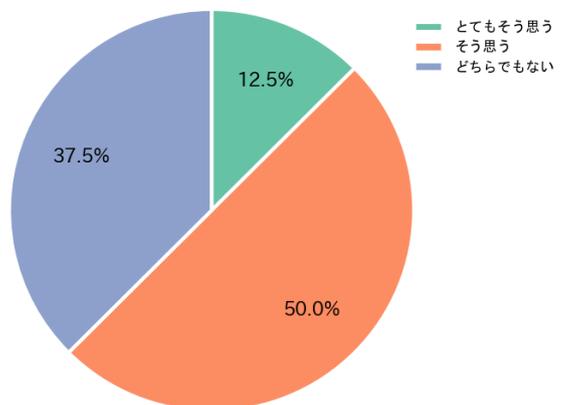
12_専門学校時代に最低限取得して欲しい資格がある



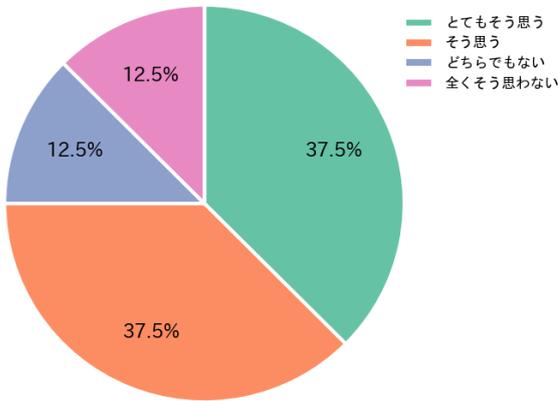
13_専門学校時代の成績や出席率は気になる



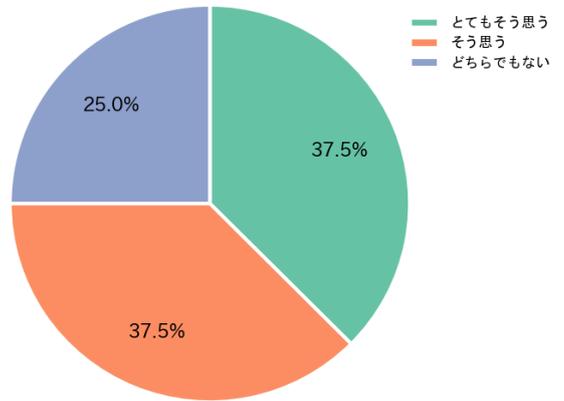
14_採用時に専門学校先生の推薦があったほうが良い



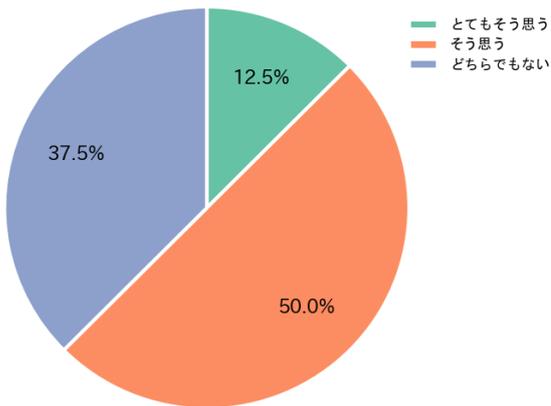
15_通建業界とその仕事に関して専門学校生にもっと知ってもらいたい



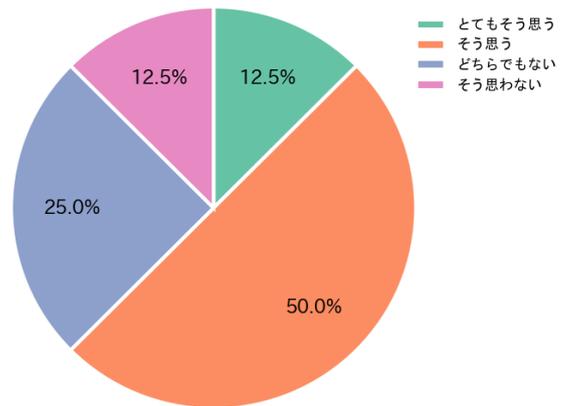
16_学生に対して体験授業や講話の為に学校に出向いても良い



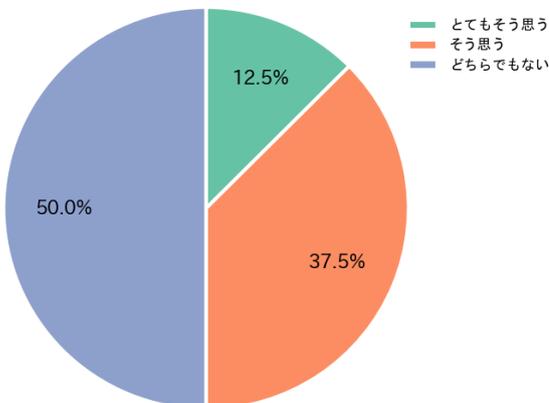
17_専門卒の新人と高卒の新人に対して違いを求める部分がある



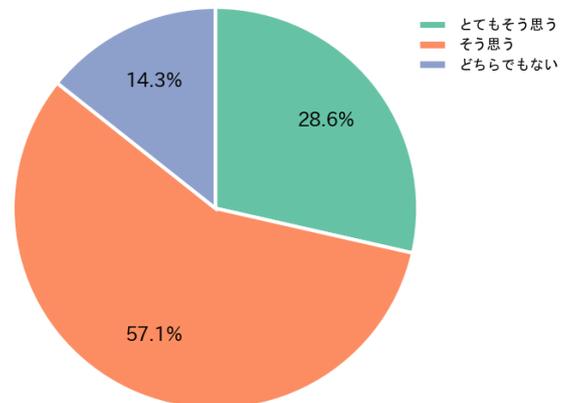
18_専門学校のうちに学んでほしい事がある



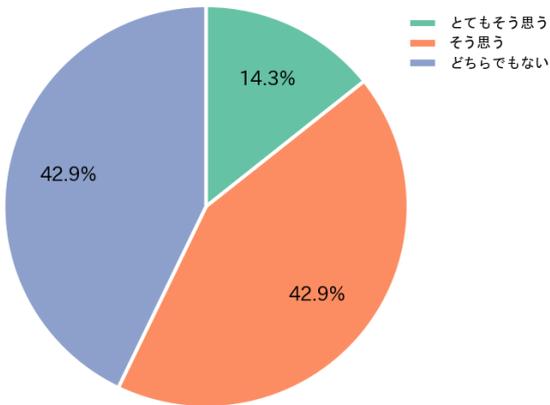
19_留学生でも新卒採用してみたい



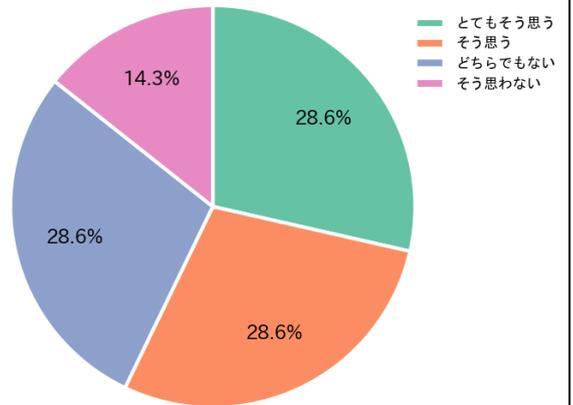
20_業界そのものに対して若者の認知に欠けていると思う



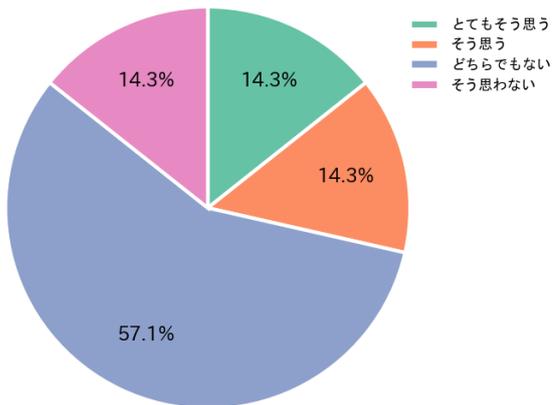
21_通建業界はIT業界に含まれると思う



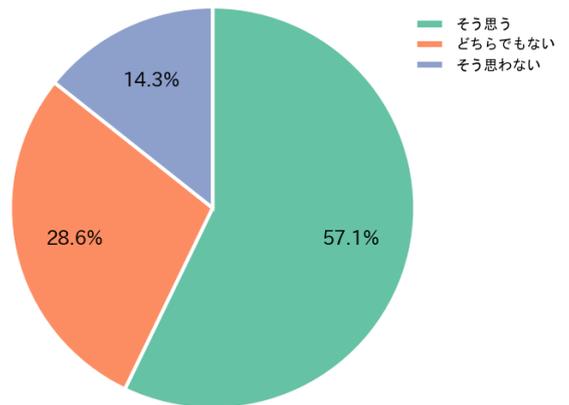
22_通建業界は建設業界に含まれると思う



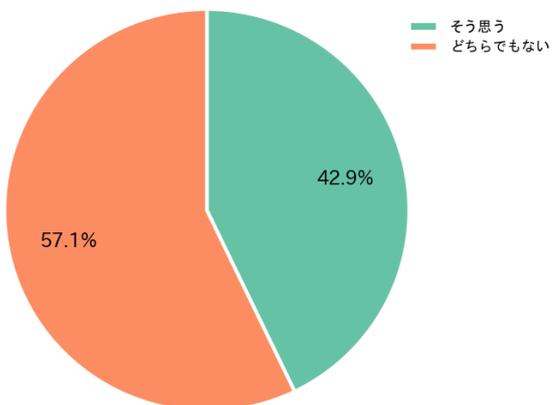
23_通建業界の仕事はエンジニア職である



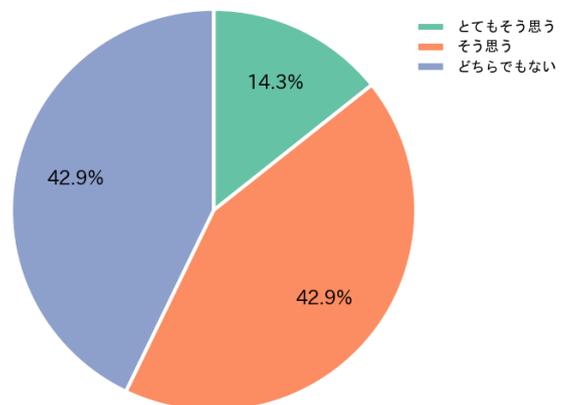
24_作業責任者の業務は作業員と異なり専門職である



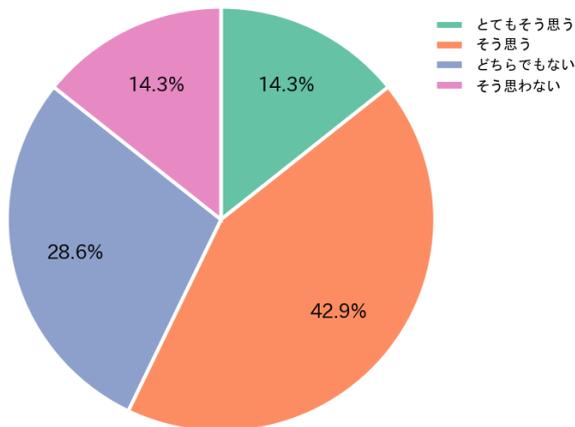
25_新卒未経験者は業務経験3年程度で上位の専門職(作業責任者)になる可能性がある



26_業務は常にチームワークである



27_通建業界はいわゆるブラックな業界ではない



4. イベント参加者の意見

① イベントコンテンツに対する感想

- ・生徒の個人端末を利用するため、同じ環境を用意できなかった。通信量などが不安。解像度の問題有。
- ・VRでどんな仕事内容なのか知ることが出来た。また光ファイバーの溶接や、フルハーネスをつけるなどの体験が出来て業務への理解が深くなった。

② 専門学校の説明を聞いた感想

- ・生徒にとっては少し難しい内容もあったが、進路選択の一つとして情報収集につながる内容であった。
- ・実際のエンジニアや施工管理者に話が聞けて良かった。

③ 通信建設業界に就職する場合、高校卒業または専門学校卒業のどちらを選びますか？

- ・現時点では専門学校への進学は効果がうすいのではないかと感じていますが、専門学校進学後に資格取得等に取り組むのであれば選択肢に入ると考えます。
- ・現在専門学校にてネットワーク構築運用の基礎やプログラミングの基本などを学んでいるので、0からスタートより1を知って業務に携わりたいため。

④ 次回のイベントに期待することは何ですか？

- ・コンテンツの充実。参加企業の増加。(参加高校も?)
- ・企業説明ブースで隣のブースの説明と声が混ざって聞き取りにくかったので企業間のスペースを空けてほしいです。

⑤ 本イベントに参加して通信建設業界に対するイメージは変わりましたか？

- ・直接見ることはできなかったが、生徒にとっては少しでも具体的なイメージを持つきっかけとなったと感じる。
- ・男性の多い職種だと思っていたが、女性も多くなってきたと聞くことが出来たため、安心した。

調査結果の分析

・高校生向け調査

高校生がアンケート回答で使用している情報端末は、圧倒的にスマホ、タブレットであり、IoTネットワークの利用が日常のかつ手軽、そして当たり前的事であると感じていると推測できる。そのIoTネットワークにかかわるインフラ工事という仕事は、IoTが前面に来ると明るい未来が想像されるようで、4割強の人が業界に興味を持っている。一方、建設業の中の一部ということが協調されると建設＝「キツイ仕事」というイメージが先行し、業界への興味が一気に冷え込む。

項目10、11、14の回答からは、仕事にやりがいを求めること、就労の意識が高いこと、そして安楽な仕事に就きたいと思っているとは限らないことが読み取れる。また一方では、自宅通勤、定時勤務を望み、報酬高が仕事選択における決定的な要因とも限らないことも伺える。しかしながら、具体的な進路決定に至っていないことは項目13、18から推測される。

項目15、16から、専門的、技術的な学習・科目は生徒からは好評の様子である。高等学校にあっては、インターンシップ型イベント等を介しての生徒に興味を抱かせるアプローチ策、続いて専門性を高めるための資格取得誘導。これには、必須資格の選定と取得を第一義的ゴールとする目標設定が教育プログラムとして効果的と推測できる。

・専門学生向け調査

今回の専門学校生参加者は、留学生も多数参加、国籍も多様であった。

IoTネットワークの重要性、建設業に対するイメージは、高校生とほぼ同様である。高校生と異なるのは、専門学校卒業後の就業意識は圧倒的に高く、卒業イコール就業希望となっていること。そして、勤労意欲は高く、就業後の独立意識も高い傾向にあること。

就学中の専攻科目と関係した職業に就きたいとの意識は強く、項目13の「楽な仕事に就きたい」と14「自分のやりたい仕事に就きたい」を比較すると後者が大きく上回る。

項目19、21の回答からは専門技術習得と必要資格取得への関心が強いことが読み取れる。また、項目3の「通信」に対する専門資格取得必要性への意識が高いことが伺える。

専門学校科目には、業界企業との連携による必須資格選定を図り、就職後の即戦力として、専門資格取得を骨子とするキャリア教育プログラムの確立が人材育成及び業界案内には効果的であると推測する。

・企業向け調査

アンケート回答者は、50代を中心とした管理監督職層で、採用権限を有するものと推測できる。

項目1～4と11～13の回答から、高校生と専門学生に求めることが異なることがわかる。高校生

には関心・興味を持つことを希望し、専門学生には一定の資格取得を求めている。業界各社が、技術取得と資格取得の教育体制が整っていることへの自負が背景にあると推測できる。

半面、募集に関する効果策を見いだせないためか、項目 5、14にあるように教育機関からの就職推薦に期待する傾向である。機会があれば積極的に赴き、業界訴求活動を行い採用に結び付けたい意向が見て取れる。これまでの募集手法では、人材獲得は難しいという認識は業界で形成されている様子である。

高校生へのアプローチと専門学生へのそれを区別し、それぞれに希望する人材要件を具体化、必須教育プログラムの中に通信建設業への就職を取り込む連携フロー構築が効果的であると推測できる。

企業にあっては、業容拡大に人材確保は不可欠。業務実績の説明だけでなく、その専門職育成へ向けての社内教育環境整備が整っていること、加えて、福利厚生を含む「働き方改革」推進企業であることを訴求する。広報活動では、成長・安全・安心な魅力的業界であることを伝え、「建設」業に対するイメージ払拭も重要な項目と推測する。

[総評]

高校生は、興味・関心が多様な時期で絞り込むことは難しい。しかし、在学中に取得資格を目標設定することで急速に関心度が増す可能性は否定できない。

専門学生は、就学知識をより専門的にブラッシュアップし就職に結びつける意識が高い。セグメントすることでより専門性向上の指標を提案することは可能。

通信建設企業は、新人受け入れ体制が整っている。アンケート調査では表れないが、イベント現場では、支援企業社員の技術指導・説明の専門性は当然のこと、社会人としても教育されていることが立ち居振る舞いから感じ取ることができた。

教育機関と業界企業の連携プログラムは、専門職育成だけに留まらず社会人基礎力教育を包括できるものと推測する。

第4項 ジョブフェア（体験学習会）の開催

本事業の要は、高校→専門学校→電気通信工事業界による一気通貫型の人材プラットフォームの構築と運営にある。

電気通信工事業界と学生を繋ぐ事業の試みとして、2022年3月7日には、産学連携コンソーシアムにより企画した職業紹介・体験イベントを「通信産業インターンシップ2022」として開催した。開催に際しては、イベント専用WEBサイトを作成し、会場での直接参加者を対象とした内容告知を行うとともに、当日直接参加が叶わない学生であってもWEB上で職業体験が可能となるVRコンテンツも制作し公開した。



EVENT CONTENTS 02

お仕事体験VR

通信インフラエンジニアのお仕事を、VR映像でリアルに体験できます。
※ヘッドセットがなくても視聴できます。

 VR動画を視聴する

通信産業2022
インターンシップ

開催概要

- 開催日時**
2022年3月7日（月）10:00~14:00
- 会場**
ミライト市川研修センター
〒272-0004 千葉県市川市原木4丁目8-8
JR京葉線「二俣新町駅」徒歩 約15分
東京メトロ「原木中山駅」徒歩 約20分
JR総武線、東京メトロ「西船橋駅」徒歩 約25分
- イベント・コンテンツ**
 - ・鉄塔昇降体験
 - ・融着接続体験
 - ・屋上基地局見学
 - ・VR動画体験
- 参加方法**
通学している教育機関の就職課を通じてお申し込みください。
- 対象**
通信産業に興味のある高校生・専門学校生

MAP



「未来をつなぐ」を 仕事にしよう!

開催日時 2022年3月7日(月)
10:00~14:00

場所 ミライト研修センタ
千葉県市川市原木4丁目8-8

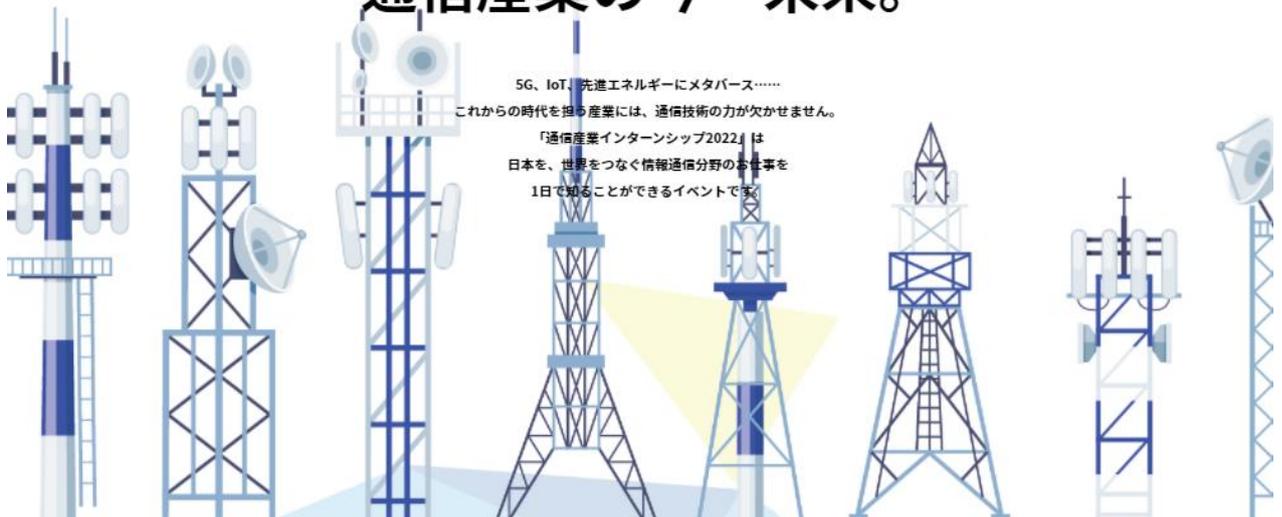
CLICK
↓
アンケートは
こちら

通信産業インターンシップって?

1日でわかる、 通信産業の今・未来。

5G、IoT、先進エネルギーにメタバース……
これからの時代を担う産業には、通信技術の力が欠かせません。

「通信産業インターンシップ2022」は
日本を、世界をつなぐ情報通信分野のお仕事を
1日で知ることができるイベントです。



2022年3月7日 リアルイベント

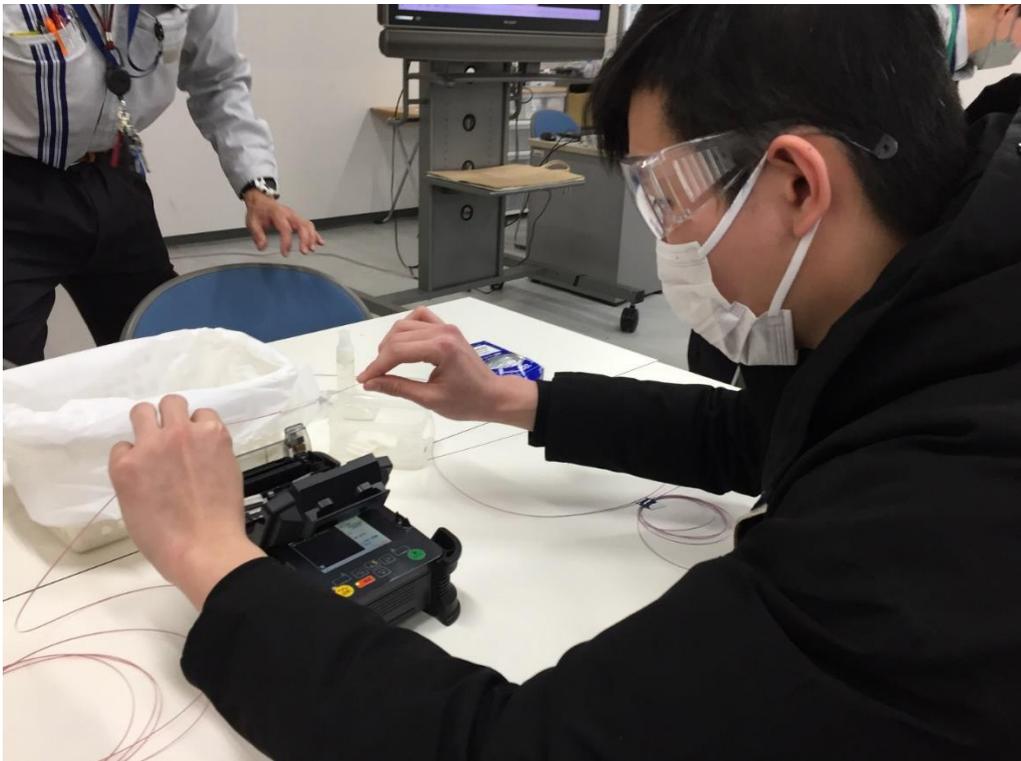


・ 鉄塔昇降体験





・融着接続体験



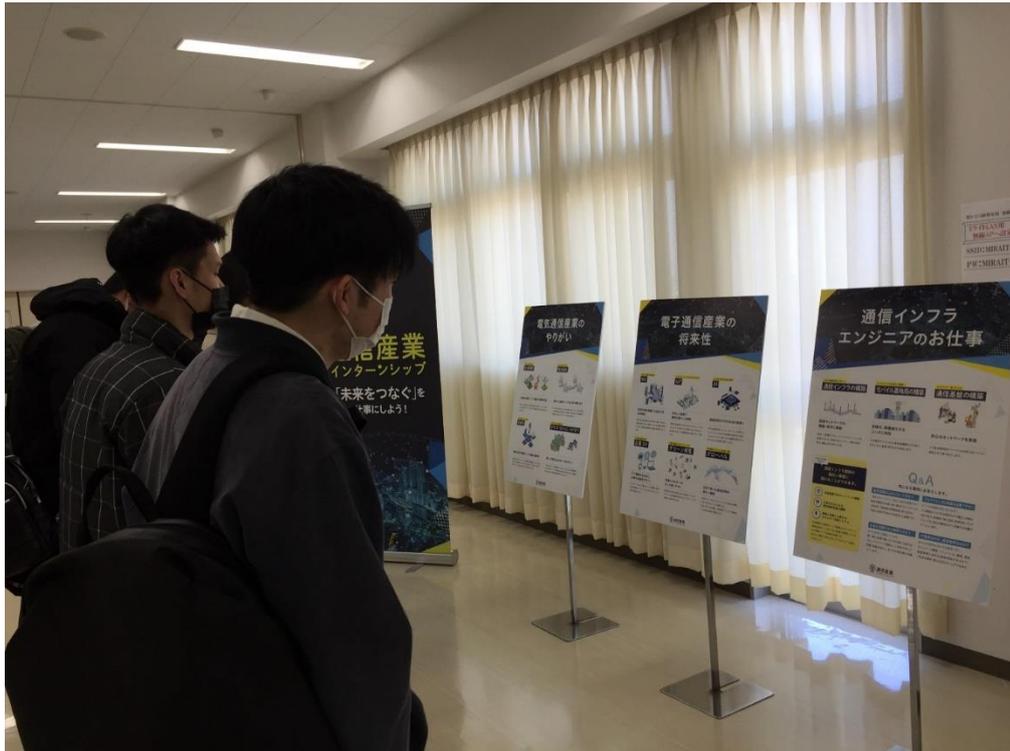
・屋上基地局見学



・VR 動画体験



・お仕事紹介パネル



- ・企業説明ブース（井上通信株式会社、株式会社ミライト・モバイル・イースト、株式会社、大電テクニカ、株式会社タカデン）







3月7日イベントオンライン対応 ・オンライン版お仕事紹介パネル

通信インフラ
エンジニアのお仕事

EVENT CONTENTS 01
お仕事紹介パネル

通信産業の仕事内容や将来性を
わかりやすく解説しました。
内容を見るにはパネルをクリックして下さい。

EVENT CONTENTS 02

ここにを入力して検索

13°C 2022/7

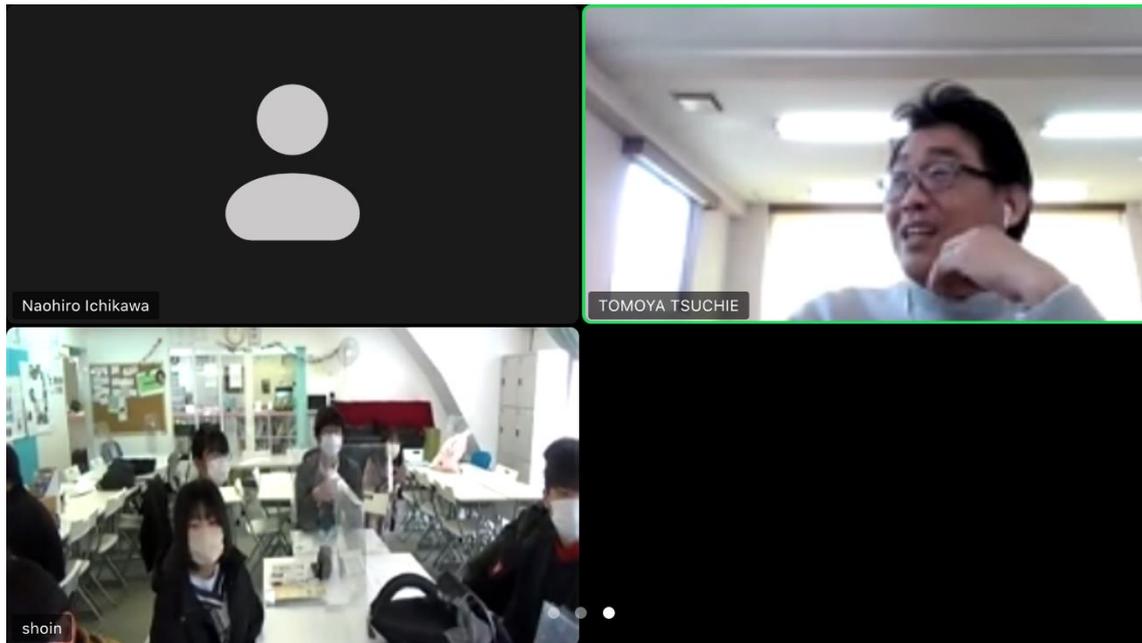
・オンライン版お仕事実演動画



・各学校にて Web 会議形式でお仕事体験 VR



・各学校にて Web 会議形式で専門学校説明（中央情報専門学校）



・各学校にて Web 会議形式で業界企業説明（ギグワークスアドバリュー株式会社）



2月25日専門学校内での実技実習体験授業
(株)ミライトの協力により中央情報専門学校 IT・Web 学科の学生を対象に実施



・光ファイバーケーブルの芯線をトレイに格納する実習



・ツイストペアケーブルを RJ45 コネクタに
結線する実習



第3章 教育プログラムの開発

第1節 カリキュラムの開発

高等学校において新たに必須科目となった「情報Ⅰ」を精査し、電気通信(テレコミュニケーション)業界が入職後に求めるITパスポート試験の合格に到達可能な高校と専門学校が連携するカリキュラムを開発した。

第1項 情報教育連携プログラム

		高校-専門学校連携	
専門学校	2年次	ITパスポートを目標とした上位科目	
	1年次	情報学基礎	
高校	3年次	【工業高校】	【通信制高校】 情報Ⅰ(70時間/年)
	2年次		
	1年次	情報技術基礎(1時間/週)	
備考	産業界が求めるITパスポート資格を最終目標とし、高校で学んだ情報Ⅰを職業教育の観点から再監修したIT科目「情報学基礎」の設定及び、上位科目の開発		

第2項 電気通信業界を見据えたキャリア教育プログラム

① 県立高校のカリキュラムにおいて設定されていない「キャリア教育」の科目化

3年次に3時間/週で履修される「課題研究」科目において職業体験をおこなう

		工業高校-専門学校連携	
専門学校	2年次		
	1年次	キャリア教育1	
工業高校	3年次	課題研究(3時間/週)	
	2年次		
	1年次		
備考	業界と連携、エントリレベルの知識・スキルセットの開発。 3月7日イベントにてオンライン対応		

- ② 通信制高校において設定されている科目でのキャリア教育
 在学中の120時間/年で履修される「社会人基礎力」科目において、生徒が電気通信業界に対する理解及び職業体験を可能とするコンテンツ

		通信制高校-専門学校連携
専門学校	2年次	
	1年次	キャリア教育1
通信制高校	3年次	社会人基礎力（120時間/年）
	2年次	
	1年次	
備考		産業界と共に体験学習などを通じて業界に興味を持ち、業界のニーズにマッチした社会人キャリア構築を見据えた科目 3月7日イベントにてオンライン対応

- ③ 本事業において初めて着手する情報系専門学校における業界キャリア教育
 専門学校生に対する電気通信業界とその仕事を理解・体験するためのコンテンツを開発

		高校-専門学校連携	
専門学校	2年次		
	1年次	キャリア教育1	
高校	3年次	【工業高校】 課題研究（3時間/週）	【通信制高校】 社会人基礎力（120時間/年）
	2年次		
	1年次		
備考		2月25日中央情報専門学校にて実技実習体験授業 3月7日ミライト市川研修センタにてリアルイベント参加	

上記①、②、③それぞれの教育プログラムコンテンツを総合的なプラットフォームとなる「通建産業インターンシップ2022」イベントの実施（オンライン実施含む）、及び専門学校内での実技実習体験が教育プログラム開発としてのアウトカムとなる。

第2節 シラバス・評価基準

第1項 工業高校（課題研究）・通信制高校（社会人基礎）共通シラバス

		高校-専門学校連携	
専門学校	2年次		
	1年次	キャリア教育 1	
高校	3年次	【工業高校】 課題研究（3時間/週）	【通信制高校】 社会人基礎力（120時間/年）
	2年次		
	1年次		
備考		業界と連携、エントリレベルの知識・スキルセットの開発。	産業界と共に体験学習などを通じて業界に興味を持ち、業界のニーズにマッチした社会人キャリア構築を見据えた科目

学科：埼玉県立川口工業高校情報通信科、松陰高校みなとみらい学習センター

科目名：キャリア教育 1

授業時間数：4時間

履修区分：必修

授業形態：演習

科目の目的：

教科書・教材など：

- ・実習教材（VR ゴーグル、VR アプリをインストールしたスマートフォン）

到達目標：

- ・電気通信業界に高校を卒業して新卒で就職する場合と、専門学校を卒業して就職する場合のキャリアパスの違いを理解できる。
- ・電気通信業界の仕事を企業の方から直接説明して頂き、質問に答えて頂くことで業界及び仕事に対する理解を深める
- ・VR ゴーグルを使って高所作業や地下作業を自らの感覚で体験する。

評価方法と基準：

出席・学習態度・意欲（40%）、小テスト（20%）、試験、成果発表、課題提出物、総合力（40%）により 100 点満点で採点し、A、B、C、D、F の 5 段階で評価する。総合力では、知

識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢を評価する。

授業計画：

項目	学習内容
仕事体験 VR	VR 動画を視聴可能な状態に準備する。 実際にゴーグルを装着して 4 分 30 秒程度の作業体験をする。
専門学校の説明	専門学校とは？ 情報系の専門学校で何を学ぶか？ 情報系専門学校を卒業するという事 質疑・応答
業界・企業説明	電気通信業界とは 電気通信業界の仕事 VR 動画について解説 業界での待遇とキャリアパス 質疑・応答

第2項 専門学校（キャリア教育1）シラバス

		高校-専門学校連携	
専門学校	2年次		
	1年次	キャリア教育1	
高校	3年次	【工業高校】 課題研究（3時間/週）	【通信制高校】 社会人基礎力（120時間/年）
	2年次		
	1年次		
備考		業界と連携、エントリレベルの知識・スキルセットの開発。	産業界と共に体験学習などを通じて業界に興味を持ち、業界のニーズにマッチした社会人キャリア構築を見据えた科目

学科：IT・Web 学科

科目名：キャリア教育1

授業時間数：12 時間

履修区分：必修

授業形態：演習

科目の目的：

教科書・教材など：

- ・学習プリントを適宜配布。
- ・実習教材（RJ45 コネクタ、UTP ケーブル、ケーブルカッター、鉸め器具、光ケーブル、格納ケース、保護メガネ、LAN テスター等）

到達目標：

- ・有線通信設備及び交換伝送設備に対する安全衛生も含めた基礎知識を理解する。
- ・LAN ケーブルの結線をテスターで確認して正しく作業できるようになる。
- ・光ケーブルを撻りが無い状態で格納ケースに格納する作業ができるようになる。
- ・インターンシップイベントを通して実際に業界の仕事を体験し、業界及び企業の理解を深める。

評価方法と基準：

出席・学習態度・意欲（40%）、小テスト（20%）、試験、成果発表、課題提出物、総合力（40%）により 100 点満点で採点し、A、B、C、D、F の 5 段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢を評価する。

授業計画：

大分類	中分類	学習内容
有線通信設備	有線通信設備の基礎	アクセス設備概要 伝送ケーブルの種類 光ファイバーケーブルの仕組み
	有線通信設備の施工	地下設備 架空設備
	有線通信設備の安全	安全作業とは 安全保護具 作業開始前の安全衛生点検 保安柵 地下作業における注意点 脚立使用時に定められている項目
	光ケーブル格納実習	光ファイバー芯線をトレイに格納する業務のための実習
交換伝送設備	交換伝送の基礎	交換伝送設備の構成 伝送の方式 IP 通信方式 IP 通信装置
	交換伝送の施工	イーサネットケーブルの規格 光ファイバーケーブル UTP ツイストペアケーブル 同軸ケーブル ケーブルの配線方法
	交換伝送の測定器・安全	測定機器（テスター）について LAN テスター 光パワーメーター パルス試験機（OTDR）
	LAN ケーブル結線実習	UTP ツイストペアケーブルを RJ45 コネクタにストレート及びクロス結線し、テスターにて確認する実習
インターンシップイベント (校外学習)	One day インターンシップによる職業体験及び業界説明	(株)ミライト市川研修センターにて ・ 鉄塔昇降体験 ・ 融着接続体験 ・ 屋上基地局見学 ・ VR 動画体験 ・ 電気通信企業の方々との業界・企業・業務説明、進路相談

第3項 専門学校（情報学基礎）シラバス

		高校-専門学校連携	
専門学校	2年次	ITパスポートを目標とした上位科目	
	1年次	情報学基礎	
高校	3年次	【工業高校】	【通信制高校】 情報Ⅰ（70時間/年）
	2年次		
	1年次	情報技術基礎（1時間/週）	
備考	産業界が求めるITパスポート資格を最終目標とし、高校で学んだ情報Ⅰを職業教育の観点から再監修したIT科目「情報学基礎」の設定及び、上位科目の開発		

学科：IT・Web 学科

科目名：情報学基礎

授業時間数：72 時間

履修区分：必修

授業形態：遠隔（eラーニング）

科目の目的：

高等学校で学んだ「情報Ⅰ」に対し、ICT ネットワーク社会で活躍するために、ブライアン・カーニハンによる「教養としてのコンピュータサイエンス」の内容と IT パスポート試験の全体構成（シラバス）を加味した、プログラミング以外の高校と就職先の業界を橋渡しする知識の確認及び習得を目的とする。

教科書・教材など：eラーニングコンテンツを想定

到達目標：

- ・ ICT の基礎技術を理解し、その内容を説明できる
- ・ コンピュータとその周辺を取り巻くシステムにおけるハードウェア及びソフトウェアを理解し説明できる。
- ・ 通信ネットワークにおける基本的な用語、仕組みを理解し説明できる。

評価方法と基準：

出席・学習態度・意欲（40%）、小テスト（20%）、試験、成果発表、課題提出物、総合力（40%）により 100 点満点で採点し、A、B、C、D、F の 5 段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢を評価する。

授業計画：

はじめに	なぜ「情報学基礎」を学ぶのか		ITパス 該当 分類	情報 I 該当 分類
1. 現代と デジタル社会	(1) 歴史	1. 情報とは何か 2. 電子計算機の登場 3. データ・情報・インテリジェ ンス	IT05	情 01 情 04 情 05 情 06
	(2) 現代～未来の デジタル社会	1. 社会のインフラ 2. 経営のツール 3. AI／データサイエンスと未来	IT03 IT04 IT06 IT07 IT08	情 04 情 07 情 16 情 17
2. コンピュータ システム	(1) ハードウェア	1. コンピュータの構造 (CPU、RAM) 2. ビット、バイト、情報の表現	IT13 IT15 IT16 IT18	情 11 情 12
	(2) ソフトウェア	1. 問題解決とアルゴリズム (プログラミング、シミュレ ーション) 2. ソフトウェアシステム (OS、アプリケーション) 3. データベース	IT09 IT10 IT11 IT14 IT17	情 09 情 10 情 13 情 14 情 15 情 22
3. 通 信 ネットワーク・ インターネット	(1) テクノロジー	1. ネットワーク 2. インターネット 3. Web 4. クラウド	IT16 IT22 IT21 IT23	情 18 情 19 情 20 情 21
	(2) メディア	1. デジタルメディア 2. 情報モラル (プライバシー、著作権) 3. 情報セキュリティ	IT02 IT19 IT20 IT23	情 02 情 03 情 07 情 08

第4項 参考：ITパスポート試験 全体構成 (シラバス)

系	大分類	No	中分類	項目
ストラテジ系 (25%)	1. 企業活動と法務	01 02	企業活動 法務	1. 経営・組織論 2. 業務分析・データ利活用 3. 会計・財務 4. 知的財産権 5. セキュリティ関連法規 6. 労働関連・取引関連法規 7. その他の法律・ガイドライン・情報倫理 8. 標準化関連
	2. 経営戦略	03 04 05	経営戦略マネジメント 技術戦略マネジメント ビジネスインダストリ	9. 経営戦略手法 10. マーケティング 11. ビジネス戦略と目標・評価 12. 経営管理システム 13. 技術開発戦略の立案・技術開発計画 14. ビジネスシステム 15. エンジニアリングシステム 16. e-ビジネス 17. IoT システム・組み込みシステム
	3. システム戦略	06 07	システム戦略 システム企画	18. 情報システム戦略 19. 業務プロセス 20. ソリューションビジネス 21. システム活用促進・評価 22. システム化計画 23. 要件定義 24. 調達計画・実施
マネジメント系 (25%)	4. 開発技術	08 09	システム開発技術 ソフトウェア開発管理技術	25. システム開発技術 26. 開発プロセス・手法
	5. プロジェクトマネジメント	10	プロジェクトマネジメント	27. プロジェクトマネジメント
	6. サービスマネジメント	11 12	サービスマネジメント システム監査	28. サービスマネジメント 29. サービスマネジメントシステム 30. ファシリティマネジメント 31. システム監査 32. 内部統制
テクノロジー系 (50%) 出題構成比	7. 基礎理論	13 14	基礎理論 アルゴリズムとプログラミング	33. 離散数学 34. 応用数学 35. 情報に関する理論 36. データ構造 37. アルゴリズムとプログラミング 38. プログラム言語 39. その他の言語
	8. コンピュータシステム	15 16 17 18	コンピュータ構成要素 システム構成要素 ソフトウェア ハードウェア	40. プロセッサ 41. メモリ 42. 入出力デバイス 43. システムの構成 44. システムの評価指標 45. オペレーティングシステム 46. ファイルシステム 47. オフィスツール 48. オープンソースソフトウェア 49. ハードウェア (コ

				ンピュータ・入出力装置)
	9. 技術要素	19 20 21 22 23	情報デザイン 情報メディア データベース ネットワーク セキュリティ	50. 情報デザイン 52. マルチメディア技術 53. マルチメディア応用 51. インタフェース設計 54. データベース方式 55. データベース設計 56. データ操作 57. トランザクション処理 58. ネットワーク方式 59. 通信プロトコル 60. ネットワーク応用 61. 情報セキュリティ 62. 情報セキュリティ管理 63. 情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術

第5項 参考：高校「情報Ⅰ」 全体構成 （文部科学省）

大分類	No	中分類	項目
(1) 情報社会の問題解決 (14h)	01 02 03 04 05	情報やメディアの特性と問題の発見・解決 情報セキュリティ 情報に関する法規, 情報モラル 情報社会におけるコミュニケーションのメリット・デメリット 情報技術の発展	(1) 情報やメディアの特性 (2) 問題の発見・解決 (3) 問題解決の振り返りと改善 (4) 情報に関する法や制度 (5) 情報セキュリティの重要性 (6) 情報社会における個人の責任と情報モラル (7) 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響 (8) 情報と情報技術の適切かつ効果的な活用 (9) 望ましい情報社会の構築
(2) コミュニケーションと情報デザイン (16h)	06 07 08 09 10	デジタルにすること コミュニケーションを成立させるもの メディアとコミュニケーション, そのツール 情報をデザインすることの意味 デザインするための一連の進め方	(1) 情報のデジタル化 (2) コミュニケーション手段の特徴 (3) コミュニケーションツールの特徴 (4) 情報デザインの役割 (5) 情報の抽象化, 可視化, 構造化 (6) 情報伝達の方法 (7) 情報デザインの考え方を活かしたコミュニケーション (8) コンテンツ制作の過程 (9) コンテンツの評価, 改善
(3) コンピュータとプログラミング (14h)	11 12 13 14 15 16	コンピュータの仕組み 外部装置との接続 基本的プログラム 応用的プログラム アルゴリズムの比較 確定モデルと確率モデル	(1) コンピュータの仕組み コンピュータの構成, 演算の仕組み, AND・OR・NOT, 真理値表 (2) 計算誤差 計算誤差, プログラミングを使った計算誤差の確認 (3) 外部装置との接続 計測・制御, センサ, アクチュエータ, 計測・制御プログ

	17	自然現象のモデル化とシミュレーション	ラム (4)基本的プログラム アルゴリズム, プログラム, フローチャート, 順次・分岐・反復, 変数 (5)応用的プログラム 配列, 乱数, 関数, WebAPI (6)アルゴリズムの比較 探索アルゴリズムの比較, ソートアルゴリズムの比較 (7)モデル化とシミュレーション モデル, モデルの分類, プログラミングを使ったシミュレーション (8)確定モデルと確率モデル 確定モデルのシミュレーション, 確率モデルのシミュレーション (9)自然現象のモデル化とシミュレーション 自然現象のモデル化とシミュレーション, モデルの妥当性の検討
(4) 情報通信ネットワークとデータの活用 (16h) 計 60 授業時間	18 19 20 21 22 23 24	情報通信ネットワークの仕組み 情報通信ネットワークの構築 情報システムが提供するサービス さまざまな形式のデータとその表現形式 量的データの分析 質的データの分析 データの形式と可視化	(1)情報通信ネットワークの仕組みと役割 サーバ, クライアント, ルータ, 無線LAN (2)通信プロトコルとデータ通信 プロトコル, 経路制御, 伝送制御 (3)情報セキュリティ 個人認証, デジタル署名, 暗号化 (4)データの蓄積と管理 データ, データの蓄積 (5)データベース 関係データベース (6)情報システムとそのサービス POS, ATM, 情報システム, トレーサビリティ (7)データの提供 オープンデータ (8)データの表現 尺度水準, 量的データ, 質的データ, データの形式, ビッグデータ (9)データの収集と整理 Web スクレイピング, データクリーニング (10)データの分析と評価 テキストマイニング, 単回帰分析, 可視化, 評価指標

第4章 教育プログラムの普及ネットワークおよび想定普及地域

第1節 教育プログラムの普及ネットワークおよび想定普及地域

第1項 事業連携機関ネットワークと普及を想定する地域、高等学校

地域	(株)ミライト支店網		LEC 支店網	電気通信の「工事担任者」試験 認定工業高校
北海道 札幌市	北海道支店	札幌市	札幌本校	北海道札幌工業高等学校、北海道 札幌琴似工業高等学校、
宮城県 仙台市	東北支店	仙台市	仙台本校	仙台城南高等学校、仙台市立仙台 工業高等学校、宮城県工業高等学 校、仙台城南高等学校
千葉県	千葉支店	千葉市	千葉本校	千葉県立京葉工業高等学校、千葉 県立千葉工業高等学校、
神奈川 県横浜 市	神奈川支店	横浜市	横浜本校	神奈川県立商工高等学校、神奈川 県立神奈川工業高等学校、
愛知県 名古屋 市	東海支店	名古屋市	名古屋駅前本校	名古屋工業高等学校、名古屋市立 工業高等学校、愛知産業大学工業 高等学校、愛知県立名古屋工科高 等学校、
石川県 金沢市	北陸支店	金沢市	金沢校	石川県立工業高等学校、金沢市立 工業高等学校
大阪府	関西支店	大阪市	大阪本部	大阪市立東淀工業高等学校、大阪 市立都島工業高等学校、大阪府立 布施工科高等学校、星翔高等学 校、

香川県 高松市	四国支店	高松市	高松本校	香川県立三豊工業高等学校、香川県立多度津高等学校、
福岡県 福岡市	九州支店	福岡市	福岡本校	福岡県立福岡工業高等学校、
埼玉県	(株)ミライト・テクノロジー埼玉支店		大宮本校	埼玉県立川口工業高等学校、埼玉県立三郷工業技術高等学校、埼玉県立久喜工業高等学校、埼玉県立大宮工業高等学校、埼玉県立川越工業高等学校、埼玉県立浦和工業高等学校、埼玉県立狭山工業高等学校、埼玉県立進修館高等学校、
東京都	(株)ミライト、(株)エムズフロンティア、(株)ミライトモバイルイースト		東京本部・LEC 総研第一研究所	大森学園高等学校、昭和第一学園高等学校、東京都立北豊島工業高等学校、東京都立多摩工業高等学校、東京都立小金井工業高等学校、東京都立府中工業高等学校、東京都立杉並工業高等学校、東京都立町田工業高等学校、東京都立総合工科高等学校、東京都立荒川工業高等学校、東京都立葛西工業高等学校、東京都立蔵前工業高等学校、東京都立足立工業高等学校

第2項 事業連携機関ネットワークと普及想定する専門学校、通信制高等学校

地域	松陰高校ネットワーク	その他通信制高校	専門学校
北海道 札幌市	-	第一学院高等学校（札幌）	青山建築デザイン・医療事務専門学校、池上学院グローバルアカデミー専門学校、大原簿記情報専門学校札幌校、札幌工科専門学校、札幌科学技術専門学校、札幌商工会議所付属専門学校、札幌情報未来専門学校、札幌デザイン&テクノロジー専門学校、北海道芸術デザイン専門学校、北海道情報専門学校、吉田学園情報ビジネス専門学校、専門学校札幌ビジュアルアーツ、専門学校札幌デザイナー学院
宮城県 仙台市	宮城石巻学習センター	第一学院高等学校（仙台）	仙台大原簿記情報公務員専門学校、仙台工科専門学校、仙台デザイン&テクノロジー専門学校、専門学校デジタルアーツ仙台、東京ITプログラミング&会計専門学校仙台校、東北電子専門学校
千葉県	千葉浦安学習センター	第一学院高等学校（柏、千葉）	千葉情報経理専門学校、千葉モードビジネス専門学校、国際理工情報デザイン専門学校、東京IT会計公務員専門学校千葉校、大原簿記公務員専門学校千葉校、船橋情報ビジネス専門学校、大原簿記公務員医療情報ビジネス専門学校津田沼校、大原簿記法律専門学校柏校、東和IT専門学校
神奈川県 横浜市	みなとみらい学習センター、神奈川伊勢原学習センター	第一学院高等学校（横浜）	浅野工学専門学校、アーツカレッジヨコハマ、大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校、情報科学専門学校、横浜公務員&IT会計専門学校、横浜システム工学院専門学校、横浜デザイン学院、横浜デジタルアーツ専門学校、横浜日建工科専門学校、
愛知県 名古屋市	名古屋駅前学習センター、名古屋西学習センター	第一学院高等学校（名古屋、鶴舞）	東海工業専門学校金山校、トライデントコンピュータ専門学校、名古屋工学院専門学校、名古屋情報メディア専門学校、名古屋未来工科専門学校、東京ITプログラミング&会計専門学校 名古屋校、

石川県 金沢市	金沢校	第一学院高等学校（金沢）	専門学校 ファースト学園 金沢校、金沢情報ITクリエイター専門学校、金沢科学技術大学校、大原簿記法律観光専門学校金沢校、
大阪府	大阪梅田校、堺深井校、堺なかもず校、大阪心斎橋学習センター、大阪福島校、大阪南森町学習センター	第一学院高等学校（大阪、大阪梅田）	ECC コンピュータ専門学校、大阪建設専門学校、大阪工業技術専門学校、大阪コンピュータ専門学校、大阪情報コンピュータ専門学校、大阪情報専門学校、大阪電子専門学校、関西テレビ電気専門学校、近畿コンピュータ電子専門学校、修成建設専門学校、清風情報工科学院、中央工学校 OSAKA、日本コンピュータ専門学校、日本理工情報専門学校、ユービック情報専門学校、大阪 IT プログラミング&会計専門学校、大阪 IT プログラミング&会計専門学校天王寺校、OCA 大阪デザイン&IT テクノロジー専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校、HAL 大阪、中央 IT ビジネス専門学校
香川県 高松市	高松校、丸亀校	-	穴吹工科カレッジ、穴吹コンピュータカレッジ、四国総合ビジネス専門学校
福岡県 福岡市	福岡天神校	第一学院高等学校（博多）	麻生建築&デザイン専門学校、麻生情報ビジネス専門学校、大原簿記情報専門学校福岡校、九州電気専門学校、KCS 福岡情報専門学校、専門学校コンピュータ教育学院、専門学校西鉄国際ビジネスカレッジ、専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス、福岡建設専門学校、福岡国土建設専門学校、福岡デザイン&テクノロジー専門学校、
埼玉県	-	第一学院高等学校（埼玉、川越）	中央情報専門学校、CAD製図専門学校、アルスコンピュータ専門学校、埼玉コンピュータ&医療事務専門学校、東京IT会計公務員専門学校大宮校、大原簿記情報ビジネス専門学校大宮校、国際情報経済専門学校

東京都	東京神楽坂校、新宿学習センター、新宿西口学習センター	第一学院高等学校（四ツ谷、秋葉原、銀座、中目黒、立川、町田）	日本工学院専門学校、早稲田文理専門学校、東京みらいAI アンド IT 専門学校、町田・デザイン専門学校、青山製図専門学校、日本電子専門学校、日本工学院八王子専門学校、東京工学院専門学校、東京電子専門学校、中央工学校、読売理工医療福祉専門学校、東京情報クリエイター工学院専門学校、専門学校東京テクニカルカレッジ、駿台電子情報&ビジネス専門学校、東京マルチメディア専門学校、東京日建工科専門学校、HAL 東京、
-----	----------------------------	--------------------------------	---

令和 3 年度
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社東京リーガルマインドが実施した令和 3 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。